



Cisco Catalyst IW9167E 防爆アクセスポイント ハードウェア 設置ガイド

最終更新：2025 年 9 月 30 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

Text Part Number: 78-102210-01

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The following information is for FCC compliance of Class A devices: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio-frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case users will be required to correct the interference at their own expense.

The following information is for FCC compliance of Class B devices: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If the equipment causes interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, users are encouraged to try to correct the interference by using one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Modifications to this product not authorized by Cisco could void the FCC approval and negate your authority to operate the product.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2024–2025 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに :

はじめに vii

このマニュアルについて vii

マニュアルの変更履歴 vii

表記法 viii

関連資料 viii

通信、サービス、およびその他の情報 viii

シスコのバグ検索ツール ix

マニュアルに関するフィードバック ix

マニュアルの変更履歴 xi

第 1 章

Cisco Catalyst IW9167E 防爆アクセスポイントについて 1

Cisco Catalyst IW9167E 防爆アクセスポイント 1

Cisco Catalyst IW9167E 防爆アクセスポイント の機能 2

物理仕様 2

コネクタおよびポート 5

DC 電源用 4 ピン Micro-Fit コネクタ 6

電源 8

データ接続 9

アンテナおよび無線機 10

サポートされる外部アンテナ 10

第 2 章

アクセスポイントの開梱 15

パッケージの内容 15

アクセス ポイントの開梱	15
注文可能なシスコ製アクセサリ	15

第 3 章

設置の概要 19

設置前の設定（任意）	19
設置前の確認と設置のガイドライン	21
アクセス ポイントの取り付け	22
取り付け用部品	22
取り付けブラケットの部品番号	23
一体型フランジマウントの使用	23
DIN レール取り付けブラケットの使用	25
支柱取り付けブラケットの使用	27
取り付けブラケット AIR-ACCPMK3700= の使用	27
取り付けブラケット AIR-ACCPMK3700-2= の使用	29
アクセス ポイントの接地	34
アクセスポイントへの電源供給	36
電源	36
電源機能対照表	37
認定ケーブルグランドまたは Flex コンジットを使用した DC 電源ポートへの接続	37
データ ケーブルの接続	39
イーサネットケーブルを使用した接続	39
認定ケーブルグランドまたは Flex コンジットを使用した RJ-45 ポートへの接続	39
光ファイバケーブルを使用した接続	41
ケーブルグランドを使用した SFP ポートへの接続	41

第 4 章

アクセスポイントの設定と配置 45

コントローラ ディスカバリ プロセス	45
ワイヤレスネットワークへのアクセスポイントの導入	46
アクセス ポイントの LED の確認	47

第 5 章

トラブルシューティング 51

リセット ボタンの使用	51
コントローラへのアクセスポイント参加プロセスのトラブルシューティング	52
コントローラベースの導入に関する重要な情報	52
DHCP オプション 43 の設定	53

第 6 章

安全に関するガイドラインおよび警告 55

安全上の注意事項	55
FCC 安全基準	56
安全上の注意	56
アンテナを取り付ける際の安全上の注意	57
テスト環境での無線機の損傷の回避	58
サイト調査の実行	59

第 7 章

危険場所での設置に関する安全ガイドラインおよび警告 61

危険場所での設置に関する警告および注意事項	61
設置前のその他の考慮事項	63
静電放電の回避	64
メンテナンスの実施	64
アクセス ポイントの使用の中止	64
定期検査の実施	64
防爆標準規格およびマーキングの文字列	65

第 8 章

適合宣言および規制に関する情報 69

製造業者による連邦通信委員会への適合宣言	69
Operation of Cisco Catalyst Access Points in México	70
VCCI に関する警告（日本）	71
ステートメント 2012 - 日本向け VCCI クラス A に関する警告	71
Cisco Catalyst アクセスポイントの使用に関するガイドライン（日本の場合）	71
カナダ向けの適合文書	72
カナダ産業省	73
中国適合文書	73

European Community, Switzerland, Norway, Iceland, and Liechtenstein	73
Operation of Cisco Catalyst Access Points in Brazil	74
RF 被曝に関する適合宣言	75
RF 被曝の概要	75
このデバイスの、電波への暴露の国際的ガイドラインへの準拠	76
このデバイスの、電波への暴露の FCC ガイドラインへの準拠	76
このデバイスの、電波への暴露に対するカナダ産業省のガイドラインへの準拠	77
Cet appareil est conforme aux directives internationales en matière d'exposition aux fréquences radioélectriques	77
RF 被曝に関する追加情報	78
適合宣言	78



はじめに

ここでは、本ガイドについて、および本ガイドで使用する表記規則と関連ドキュメントについて説明します。

内容は次のとおりです。

- [このマニュアルについて](#) (vii ページ)
- [マニュアルの変更履歴](#) (vii ページ)
- [表記法](#) (viii ページ)
- [関連資料](#) (viii ページ)
- [通信、サービス、およびその他の情報](#) (viii ページ)

このマニュアルについて

このガイドでは、シスコのアクセスポイントの設置手順と、その設定に役立つリソースへのリンクを提供します。また、取り付け手順およびトラブルシューティング情報も含まれています。

マニュアルの変更履歴

表 1: 設置ガイドの変更履歴

変更日	変更の詳細
2025 年 3 月 26 日	追加 : 防爆マーキング文字列 : • ブラジル INMETRO 認証 • 韓国技術標準院 (KATS) • 中国強制認証 (CCC)
2024 年 11 月 21 日	初版

表記法

このマニュアルでは、注釈、注意、および安全に関する警告に、次の表記法を使用しています。注釈と注意には、ユーザが知っておく必要がある重要な情報が記載されています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。



注意 「要注意」の意味です。「注意」には、機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



警告 誤って行うと負傷する可能性のある操作については、安全上の警告が記載されています。各警告文に、警告を表す記号が記されています。

関連資料

Catalyst IW9167E Heavy Duty アクセスポイントのすべてのユーザーマニュアルは、次の URL で入手できます。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/wireless/catalyst-iw9167-series/series.html>

アクセスポイントを設定してワイヤレスネットワークに導入する際のガイドラインについては、次の資料を参照してください。

通信、サービス、およびその他の情報

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によりビジネスに必要な影響を与えるには、[Cisco Services](#) [英語] にアクセスしてください。
- サービスリクエストを送信するには、[Cisco Support](#) [英語] にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco DevNet](#) [英語] にアクセスしてください。
- 一般的なネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) [英語] にアクセスしてください。

- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

シスコのバグ検索ツール

[シスコのバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

マニュアルに関するフィードバック

シスコの技術マニュアルに関するフィードバックを提供するには、それぞれのオンラインドキュメントの右側のペインにあるフィードバックフォームを使用してください。

マニュアルの変更履歴

表 2: 設置ガイドの変更履歴

変更日	変更の詳細
2025 年 3 月 26 日	追加: 防爆マーキング文字列: • ブラジル INMETRO 認証 • 韓国技術標準院 (KATS) • 中国強制認証 (CCC)
2024 年 11 月 21 日	初版



第 1 章

Cisco Catalyst IW9167E 防爆アクセスポイントについて

- [Cisco Catalyst IW9167E 防爆アクセスポイント](#) (1 ページ)
- [Cisco Catalyst IW9167E 防爆アクセスポイントの機能](#) (2 ページ)
- [物理仕様](#) (2 ページ)
- [コネクタおよびポート](#) (5 ページ)
- [電源](#) (8 ページ)
- [データ接続](#) (9 ページ)
- [アンテナおよび無線機](#) (10 ページ)

Cisco Catalyst IW9167E 防爆アクセスポイント

Cisco Catalyst IW9167EH 防爆アクセスポイントはトライバンド 802.11ax (Wi-Fi 6) AP であり、組織がプロセスと運用を自動化する中で、ミッションクリティカルなアプリケーションに信頼性の高いワイヤレス接続を提供します。このアクセスポイントは、Wi-Fi 6 または Cisco Ultra-Reliable Wireless Backhaul (Cisco URWB) として動作できます。Wi-Fi 6 テクノロジーにより、産業用または屋外用で、より高い密度、より高いスループット、より多くのチャネル、より優れた電力効率、改善されたセキュリティを提供します。Cisco URWB は、移動する設備や、光ファイバの敷設が不可能か又はコストが高すぎる場所にネットワークを拡張する場合に、信頼性が非常に高いワイヤレス接続を提供します。

Cisco Catalyst IW9167E Heavy Duty アクセスポイントには、IP67 保護等級で高度な機能が満載の堅牢な設計に 3 つの 4X4 無線機が搭載されています。

Cisco Catalyst IW9167E Heavy Duty アクセスポイントシリーズには、次のハードウェアモデルが含まれます。

- Catalyst IW9167EH-x-HZ : 防爆認定されています。

x は規制ドメイン (A、B、E、F、Q、Z、または ROW) を表します。

AP の機能および仕様をすべて網羅したリストは、『[Cisco Catalyst IW9167E Heavy Duty Access Point Data Sheet](#)』に記載されています。

Cisco Catalyst IW9167E 防爆アクセスポイントの機能

このアクセスポイントは、Cisco Catalyst 9800 ワイヤレス コントローラベースの製品でサポートされており、次の機能を備えています。

- 2 GB DDR4 メモリ、1 GB NAND フラッシュ
- トライ無線、デュアルバンドのサポート：2.4 GHz スロット 0、5 GHz スロット 1、および 5/6 GHz スロット 2
- 4 X 4 MIMO（最大 4 つの空間ストリームに対応）
- 8 X Wi-Fi 用 N 型メスコネクタ、1 X GNSS 用 TNC メス、マルチプロトコル IoT 無線機、Aux 無線機、バロメータ
- Bluetooth Low Energy（BLE）無線機により、位置追跡や経路案内などの IoT 向けの用途に対応。
- 動作モード：Cisco URWB、WGB、または AP
- 1 X マルチギガビット（mGig）銅線イーサネットポート（IEEE 802.3at/bt、Cisco UPoE、100 Mbps/1 Gbps/2.5 Gbps/5 Gbps を含む PoE をサポート）
- 1 X SFP インターフェイス：最大 10 Gbps をサポート

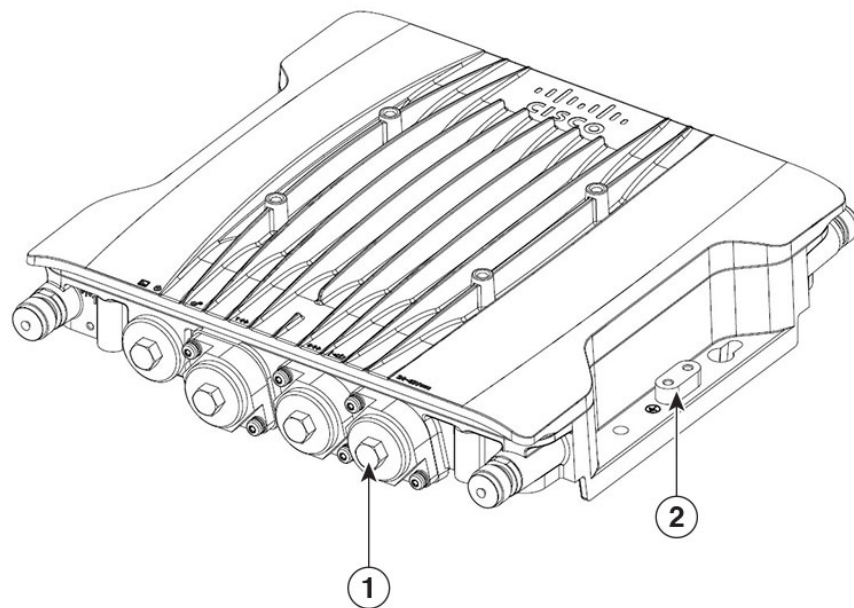
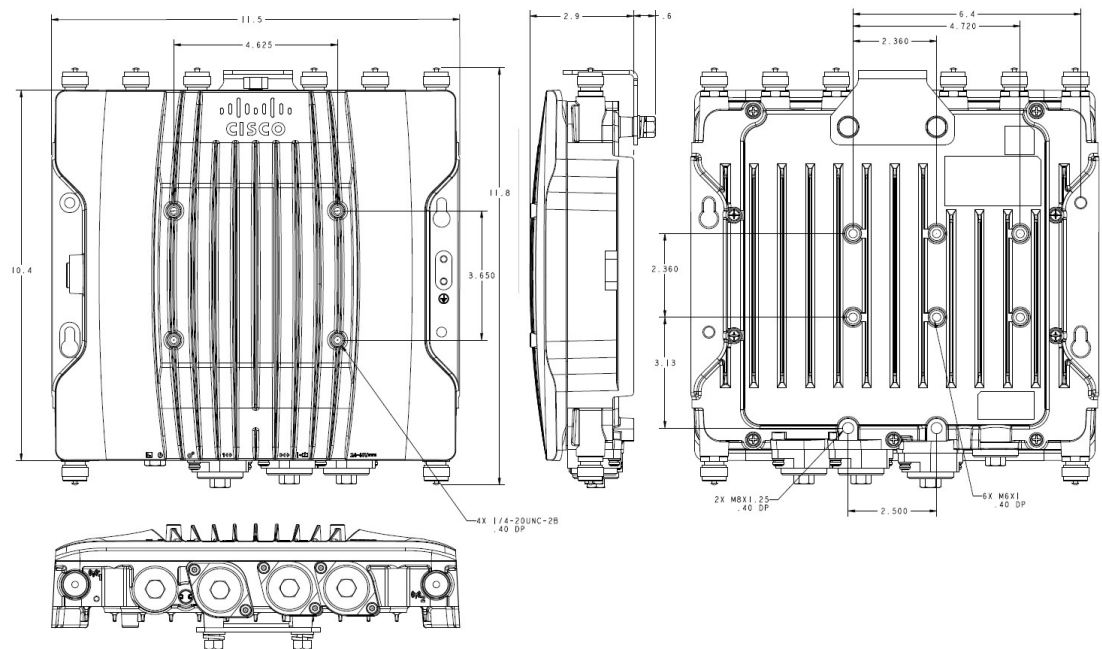


（注） 10G SFP ファイバモジュールの場合、Cisco PID SFP-10G-LR10-I は、Catalyst IW9167E アクセスポイントでの性能を保証しています。

- 2 種類の電源入力方法：PoE 入力および 24 ～ 48 VDC
- 防水・防塵：IP 66/67
- 衝撃、振動、および極端な温度条件に耐えられるように強化
- 動作温度：
 - $-40^{\circ}\text{C} \leq T_a \leq 70^{\circ}\text{C}$ （日射負荷なし）
 - -40°C での冷間起動をサポートし、 -50°C での動作に対応します。

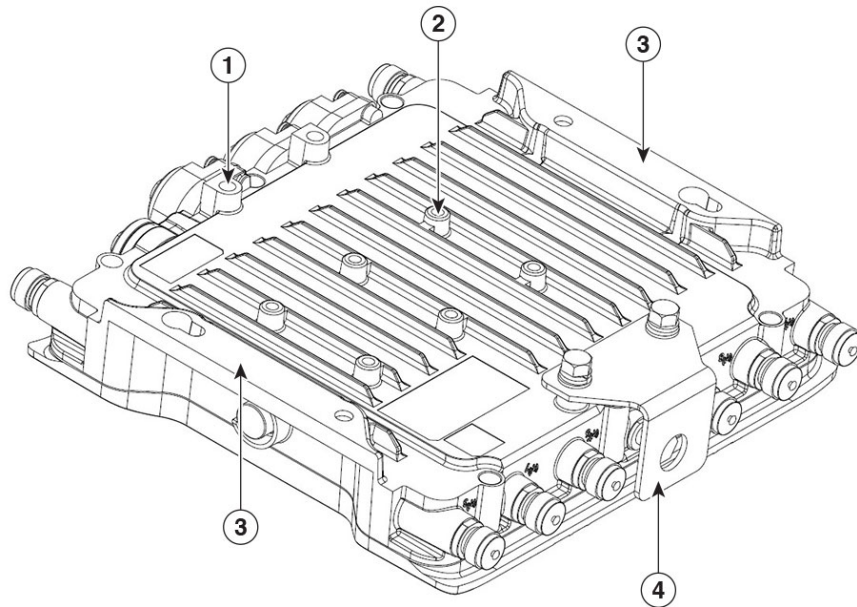
物理仕様

次の図に示す寸法は、特に断りのない限り、すべてインチ単位です



1	ポートアクセスプラグ (X 3) : M25 x1.5、1/2 インチ/ 13 mm 六角
2	アース ラグの位置

AP エンクロージャの取り付け用ハードポイント。

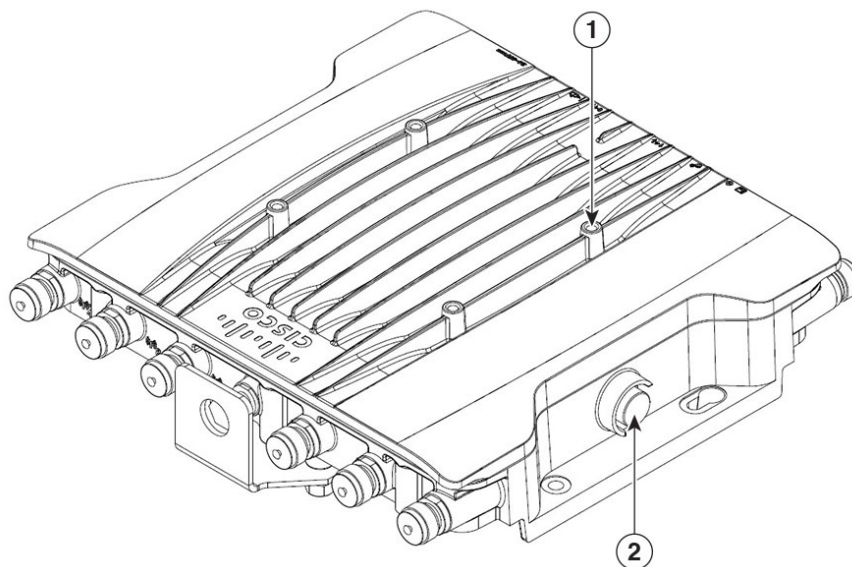


1 M8 ハードポイント (X2) : M8x1.25、奥行き 0.40 インチ	3 マウントフランジ
2 M6 ハードポイント (X6) : M6x1、奥行き 0.40 インチ	4 衝撃保護ブラケット



(注) GNSS アンテナを使用する場合は、TNC コネクタの L 字型メタルガードを取り付けます。

エンクロージャ内の圧力を維持するための圧力ベントが装備されています。

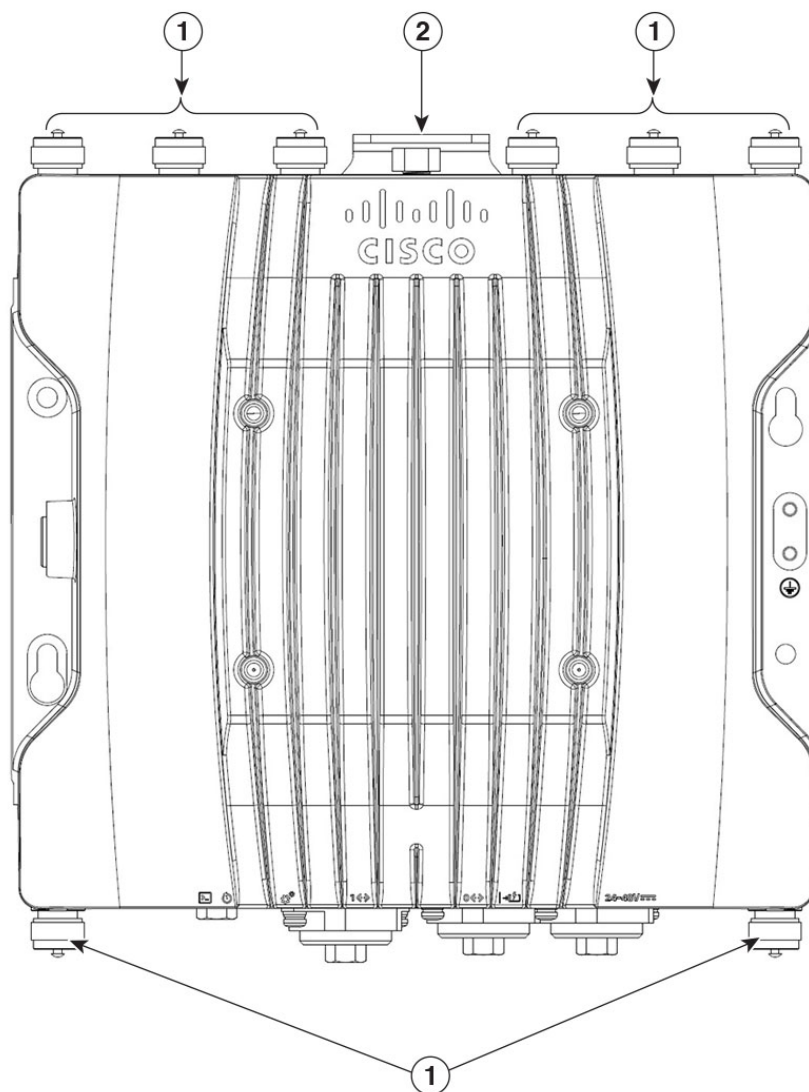


1/4-20 ハードポイント (X 4) : 1/4-20UNC-2B、奥行き 0.40 インチ	2 圧力ベン ト
--	-------------

コネクタおよびポート

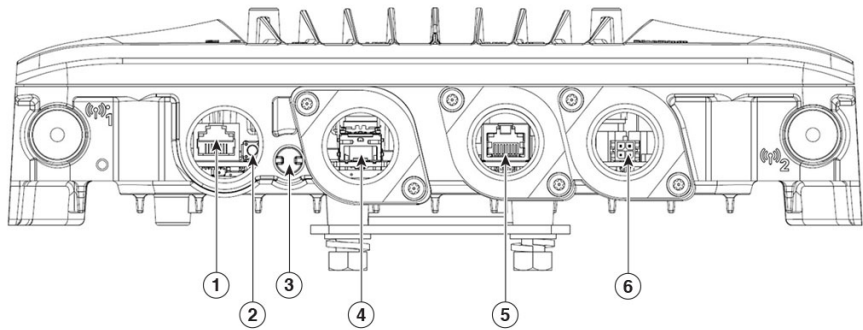
AP で利用できるポートおよびコネクタは次の図のとおりです。

図 1: Catalyst IW9167EH-HZ ポート



1 アンテナポー ト
2 GNSS ポート

図 2: Catalyst IW9167EH-HZ のコネクタ



1 コンソール ポート (RJ-45)	4 SFP (銅) 100M/1000M/10G マルチギガビットイーサネットまたは SFP (ファイバ) 1G/10G
2 リセット ボタン リセットボタンの使用方法については、 リセット ボタンの使用 (51 ページ) を参照してください。	5 100M/1000M/2.5G/5G マルチギガビットイーサネット (RJ-45) 自動検知 PoE+ 入力 (802.3at/bt)、UPOE 入力
3 ステータス LED	6 DC 電源入力 (micro-fit)



- (注)
- SFP/RJ-45/DC 電源ポートに使用されるケーブルの定格は 82°C 以上である必要があります
 - ポートを使用していない場合は、M25 I/O ポートキャップ (RJ-45 コンソールポート、SFP ポート、イーサネット (PoE) ポート、または DC 電源入力ポート) を取り付けする必要があります。最大トルク範囲 (35 ~ 40 インチポンド (3.955 ~ 4.521 Nm)) で締めます。

DC 電源用 4 ピン Micro-Fit コネクタ

次の図は、DC 電源用の 4 ピン Micro-Fit コネクタを示しています。

図 3: ジョイントコネクタ : Molex Micro-Fit 43025-0400

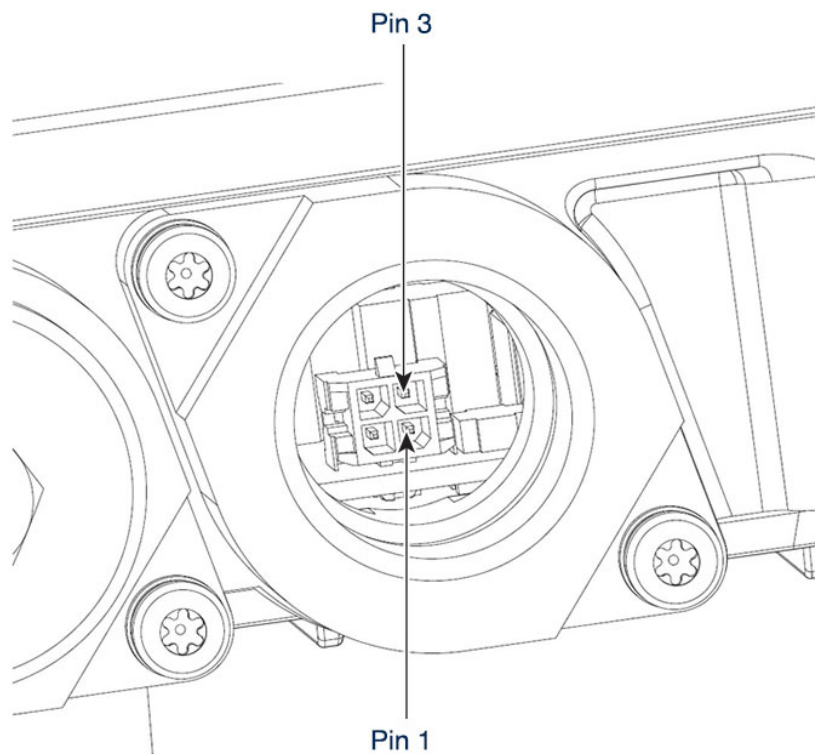
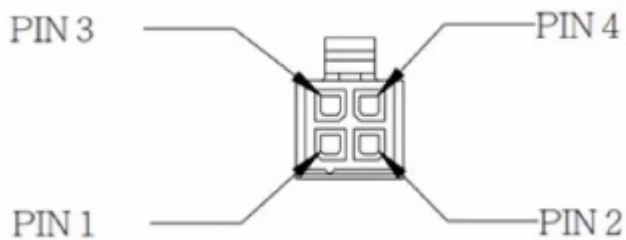


図 4: ジョイントコネクタの正面図



Molex Micro-Fit ピン	割り当て
ピン 1	黒 (- マイナス端子)
ピン 2	割り当てなし
ピン 3	白 (+ プラス端子)
ピン 4	割り当てなし

電源

Cisco Catalyst IW9167 シリーズ アクセスポイントは、次の電源をサポートしています。

- DC 電源入力 : 24 ~ 48 VDC、2.0 ~ 0.9 A



(注) No.18 AWG 以上の DC ケーブルを使用してください。

- Power over Ethernet (PoE) 入力 : 42.5 ~ 57 VDC、1.0 ~ 0.7 A

802.3at (PoE+)、802.3bt (PoE++)、Cisco Universal PoE (Cisco UPOE)。詳細については、[アクセスポイントへの電源供給 \(36 ページ\)](#) を参照してください。



(注) CAT5e またはそれ以上のイーサネットケーブルと 24 AWG 以上の太さの電話線コードを使用してください。



注意 Catalyst IW9167EH-HZ AP では、サードパーティ製の電源アダプタまたは PoE インジェクタを使用しないでください。



警告 ステートメント 1033 - 安全超低電圧 (SELV) : IEC 60950/ES1-IEC 62368 DC 電源

感電のリスクを軽減するため、この装置は、IEC 60950 に基づく安全基準の SELV 要件または IEC 62368 に基づく安全基準の ES1 および PS1 要件に適合した DC 電源、またはクラス 2 電源に接続してください。

イーサネット (PoE) ポート

この AP は、イーサネットアップリンクポートをサポートします (PoE 入力にも対応)。RJ-45 コネクタ (耐候性) を使用するイーサネットケーブルは、イーサネットデータの送受信のほか、必要に応じて、パワーインジェクタまたは適切に電源が供給されるスイッチポートからのインラインパワーの供給に使用されます。



ヒント AP は、イーサネットと電源の信号を感知して、ケーブル接続に合った内部回路に自動的に切り替えます。

データ接続

イーサネット（PoE）ポート

この AP は、イーサネット アップリンク ポートをサポートします（PoE 入力にも対応）。AP のイーサネット アップリンク ポートは、RJ-45 コネクタ（耐候性）を使用して AP を 100BASE-T、1000BASE-T、2.5G BASE-T、または 5G BASE-T ネットワークにリンクします。

イーサネットケーブルは危険場所での使用要件を満たす必要があります。つまり、ケーブルは装甲ケーブルまたはコンジット内を通したカテゴリ 5e（CAT 5e）以上のケーブルである必要があり、5G レートにはカテゴリ 6A（CAT 6A）ケーブルが必要です。



ヒント AP は、イーサネットと電源の信号を感知して、ケーブル接続に合った内部回路に自動的に切り替えます。

SFP オプション



警告 ステートメント 1008 - クラス 1 レーザー製品
クラス 1 レーザー製品です。

工場に発注可能なファイバオプションとして、ファイバ入出力機能が用意されています。ファイバデータの送受信は、次の SFP モジュールを使用してアクセスポイントに接続された、SFP に応じた単芯または二芯のファイバ ケーブル経由で行われます。

表 3: サポートされる SFP モジュール

PID	距離	ファイバ/ケーブル	動作温度範囲
GLC-SX-MM-RGD=	220 ～ 550m	MMF	IND
GLC-LX-SM-RGD=	550 m/10 km	MMF/SMF	IND
GLC-T-RGD= ¹	100 m	CAT 5e	IND
SFP-10G-LR10-I	10 km	SMF	IND
SFP-10G-T-X ²	30 m@10 Gbps	CAT 6A/CAT 7	EXT
SFP-10G-SR-I=	300m	OM3	IND

¹ GLC-T-RGD= は 1000BASE-T 接続のみをサポートします。

² SFP-10G-T-X は Cisco IOS XE リリース 17.9.3 ではサポートされていません。



- (注) SFP モジュールはホットスワップ可能ではありません。SFP モジュールを抜き差しするときは、AP を手動でリロードする必要があります。

クライアントデータは、ファイバ対応スイッチまたはコントローラからファイバ接続を経由して、ネットワークコントローラに渡されます。設定情報は、使用しているスイッチまたはコントローラの設定ガイドに記載されています。

アンテナおよび無線機

Catalyst IW9167EH アクセスポイントには、指定された 3 つの SIA ポートに繋いだ Self-Identifiable Antenna (SIA)、デュアルバンドアンテナ、シングルバンドアンテナなど、複数のアンテナオプションをサポートする 8 つの N 型メスコネクタがあります。

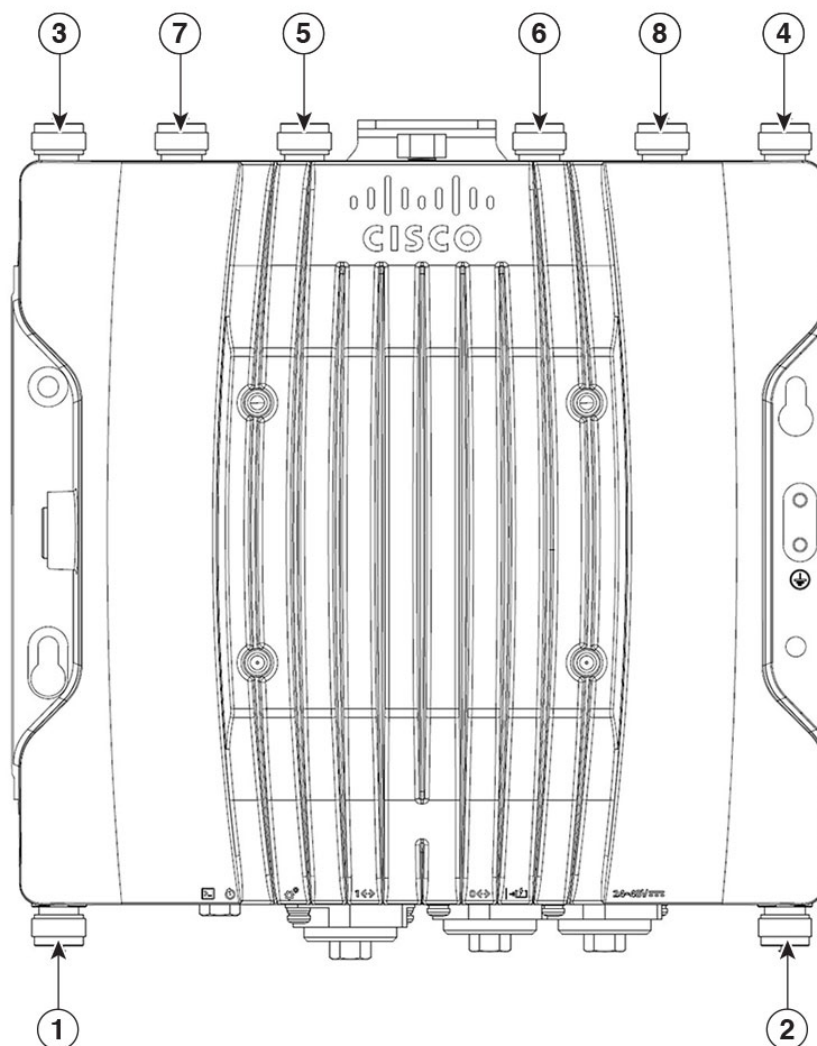
サポートされる外部アンテナ

次の図は、Catalyst IW9167EH-x-HZ アクセスポイントのアンテナポートを示しています。



- (注)
- 注：アンテナを使用しない場合は、アンテナキャップを取り付ける必要があります。最大トルク範囲（2.5 インチポンド（0.283 Nm））で締めます。
 - Catalyst IW9167EH-x-HZ AP は、サードパーティ製アンテナをサポートしません。

図 5: Catalyst IW9167EH-HZ アクセスポイントのアンテナポート



1	Port 1 4X4、2X2、または 1X1 モードで 2.4 GHz 無線機をサポートします。4X4 モードで 5 GHz 無線機をサポートします。SIA をサポートします。	2	Port 2 4X4、2X2 モードで 2.4 GHz 無線機をサポートします。4X4 モードで 5 GHz 無線機をサポートします。
---	--	---	---

3	ポート 3 4X4 モードで 2.4 GHz 無線機をサポートします。4X4、2X2 モードで 5 GHz 無線機をサポートします。	4	ポート 4 4X4 モードで 2.4 GHz 無線機をサポートします。4X4、2X2、または 1X1 モードで 5 GHz 無線機をサポートします。Bluetooth Low Energy (BLE) 無線機をサポートします。SIA をサポートします。
5	ポート 5 4X4、2X2、1X1 モードで 5/6 GHz 無線機をサポートします。SIA をサポートします。	6	ポート 6 4X4、2X2 モードで 5/6 GHz 無線機をサポートします。
7	ポート 7 4X4 モードで 5/6 GHz 無線機をサポートします。	8	ポート 8 4X4 モードで 5/6 GHz 無線機をサポートします。



(注) 無指向性アンテナをポート 1 ～ 4 とポート 5 ～ 8 の両方に直接接続しないでください。5 GHz と 5/6 GHz 無線機間の干渉を避けるには、同軸ケーブルを使用し、1 セットのアンテナを、シャーシに直接取り付けられているアンテナから少なくとも 3 フィート (1 m) 垂直に離して取り付けます。無指向性アンテナは、ポート 1 ～ 4 または 5 ～ 8 のいずれかに接続できますが、5 GHz と 5/6 GHz 無線機の両方のアンテナポートの組み合わせに同時に接続することはできません。

指向性アンテナを 5 GHz と 5/6 GHz 両方の無線機に接続する場合は、垂直方向に少なくとも 10 フィート (3 m) 離すか、水平方向に少なくとも 5 フィート (1.5 m) 離して、メインビームの方向を少なくとも 90 度離します。

サポートされる Wi-Fi アンテナ

Catalyst IW9167EH-x-HZ AP は、次の外部 Wi-Fi アンテナをサポートします。



(注) Catalyst IW9167EH-x-HZ AP は、クラス I、ディビジョン 2/ゾーン 2 の危険場所ではこれらのアンテナとともに使用してください。

表 4: サポートされる Wi-Fi アンテナ

PID	アンテナ利得 (dBi)				コネクタ	アンテナ名
	2.4 GHz	4.9 GHz	5 GHz	6 GHz		

PID	アンテナ利得 (dBi)				コネクタ	アンテナ名
IW-ANT-OMV-2567-N=	4	7	7	7	N オス	2.4/5 GHz トライバンド無指向性ダイポールアンテナ (垂直偏波、Self-Identifying)
AIR-ANT2547V-N-HZ=	4	—	7	—	N オス	Cisco Aironet デュアルバンド無指向性ダイポールアンテナ (白、防爆)
AIR-ANT2588P4M-NS=	9.1 (M)、 7.1 (H)	—	9.6 (M)、 7.8 (H)	—	N メス (X 4)	Cisco Aironet 2.4/5 GHz 8 dBi 4 素子デュアル偏波パッチアンテナ (Self-Identifying)
AIR-ANT2513P4M-NS=	13	—	13	—	N メス (X 4)	Cisco Aironet 4 ポートデュアルバンド偏波ダイバーシティ指向性パネルアンテナ (Self-Identifying)

これらのアンテナの取り付け手順および詳細情報については、Cisco.com のアンテナデータシート、または次のアンテナガイドを参照してください。

- 『Cisco Industrial Routers and Industrial Wireless Access Points Antenna Guide』
- <http://www.cisco.com/c/en/us/support/wireless/aironet-antennas-accessories/products-installation-guides-list.html>

アンテナを取り付けるときは、安全に関する注意事項に従います。安全に関する情報については、サポートされる外部アンテナ (10 ページ) を参照してください。

サポートされる URWB アンテナ

表 5: サポートされる URWB アンテナ

PID	アンテナ利得 (dBi)				コネクタ	アンテナ名
	2.4 GHz	4.9 GHz	5 GHz	6 GHz		
IW-ANT-PNL5615-NS=	—	15	15	15	N メス (X 2)	Cisco 5/6 GHz 15 dBi デュアルポート偏波ダイバーシティ指向性パネルアンテナ (Self-Identifying)
IW-ANT-H90-510-N=	—	—	10	—	N メス (X 2)	5 GHz 双直線ポートデュアル偏波ホーンアンテナ
IW-ANT-DS9-516-N=	—	15	15	—	N メス (X 2)	双直線傾斜偏波セクターアンテナ

PID	アンテナ利得 (dBi)				コネクタ	アンテナ名
IW-ANT-SS9-516-N=	—	15	15	—	N メス (X 2)	双直線偏波セクターアンテナ

サポートされる GNSS アンテナ

次の表に、Catalyst IW9167EH-x-HZ アクセスポイントでサポートされている外部 GNSS アンテナを示します。

表 6: サポートされる GNSS アンテナ

PID	サポートされている周波数	コネクタ	説明
ANT-GNSS-OUT-TNC=	1560 ~ 1608 MHz	TNC オス	屋外用アクティブ GNSS アンテナ (15 フィートの統合ケーブル付属)

危険場所に設置するアンテナは、パッシブのみで（ANT-GNSS-OUT-TNC= を除く）、定格 IP66/67 で、IEC 60079-0 に準拠している必要があります。

Catalyst IW9167EH-HZ モデルおよび上記のアンテナを防爆に準拠させるには、次の条件を満たす必要があります。

- アンテナとアクセスポイントを意図しない損傷から保護するための準備が必要です。
- アンテナの最大インダクタンスは 50 μ H を超えてはならず、静電容量は 0.01 μ F を超えてはなりません。
- アンテナの最大ケーブル長は 150 フィート (45.72 m) を超えてはなりません。
- シスコ以外が提供するケーブルを使用する場合は、ケーブル被覆は UL 認定の UV 定格のものでなければなりません。



第 2 章

アクセスポイントの開梱

- パッケージの内容 (15 ページ)
- アクセス ポイントの開梱 (15 ページ)
- 注文可能なシスコ製アクセサリ (15 ページ)

パッケージの内容

各 AP パッケージには次の品目が含まれています。

- Catalyst IW9167EH アクセスポイント X 1

アクセス ポイントの開梱

AP を開梱するには、次の手順に従ってください。

手順

- ステップ 1** 梱包を解いて、アクセスポイントと選択した取り付けアクセサリキットを梱包箱から取り出します。
- ステップ 2** 梱包材を出荷用の箱に戻し、後で使用する場合に備えて保管しておきます。
- ステップ 3** 注文品がすべて揃っていることを確認します。欠品または損傷品が見つかった場合は、製品の購入代理店まで問い合わせてください。
-

注文可能なシスコ製アクセサリ

次のアクセサリが、シスコから別売りされています。

- AP 取り付けブラケット

表 7: Catalyst IW9167EH および -HZ AP モデル用にサポートされている取り付けブラケット

Cisco PID	説明
AIR-ACCDMK3700=	DIN レール取り付けブラケット
AIR-ACCPMK3700=	支柱取り付けブラケット（直径2～3.2インチの支柱用）
AIR-ACCPMK3700-2=	支柱取り付けブラケット（直径2～16インチの支柱用）

- RF 同軸アダプタ

Cisco PID	説明
AIR-ACC370-NF-NF=	N(f) ～ N(f) RF アダプタ DC-11 GHz

- RF 同軸ケーブル

Cisco PID	説明
CAB-L400-5-N-N=	5 フィート LMR-400-DB、N (m) -STR ～ N (m) -R/A
CAB-L400-5-N-NS=	5 フィート LMR-400-DB、N (m) -STR ～ N (m) -STR
AIR-CAB010LL-N=	10 フィート LMR-400-DB、N (m) -STR ～ N (m) -STR
CAB-L400-20-N-N=	20 フィート LMR-400-DB、N (m) -STR ～ N (m) -RA
AIR-CAB025HZ-N=	25 フィート LMR-400-DB/FR/CMR、N (m) -STR ～ N (m) -RA
CAB-L600-30-N-N=	30 フィート LMR-600-DB、N (m) -STR ～ N (m) -RA
CAB-L240-10-Q-N=	10 フィート LMR-240-FR/CMR、N (m) -STR ～ QMA (m) -RA
CAB-L240-15-Q-N=	15 フィート LMR-240-FR/CMR、N (m) -STR ～ QMA (m) -RA
CAB-L240-20-Q-N=	20 フィート LMR-240-FR/CMR、N (m) -STR ～ QMA (m) -RA

- 避雷器

避雷器	説明
CGR-LA-NF-NF=	避雷器キット、N (f) コネクタ
CGR-LA-NM-NF=	避雷器キット、N (m) ～ N (f)
ACC-LA-G-TM-TF=	避雷器キット、GNSS 用 TNC (m) から TNC (f)

- 電源アダプタおよびパワーインジェクタ（PoE が使用できない場合）

電源モジュール	説明
IW-PWRADPT-MFITHZ	電源アダプタ、AC-DC、防爆環境、Micro-Fit 4 ピンコネクタ



第 3 章

設置の概要

- 設置前の設定（任意）（19 ページ）
- 設置前の確認と設置のガイドライン（21 ページ）
- アクセス ポイントの取り付け（22 ページ）
- アクセス ポイントの接地（34 ページ）
- アクセスポイントへの電源供給（36 ページ）
- データ ケーブルの接続（39 ページ）

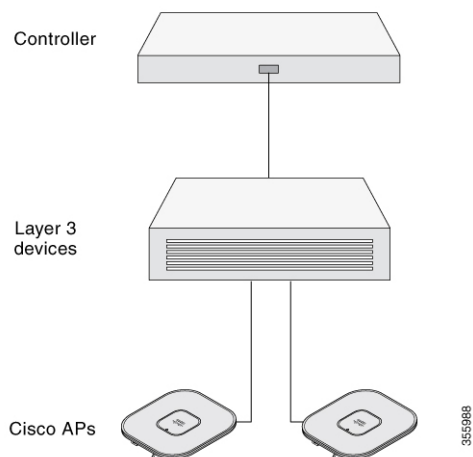
設置前の設定（任意）

次の手順は、AP の設置と初期操作が正常に行われるようにするためのプロセスを説明するものです。



- （注） 設置前の設定は、オプションの手順です。ネットワークコントローラが適切に設定されている場合は、AP を最終位置に取り付けて、そこからネットワークに接続することができます。

次の図に、設置前の設定を示します。



次の操作を行ってください。

始める前に

シスコのコントローラ分散システム（DS）がネットワークに接続されていることを確認します。該当するリリースの『[Cisco Catalyst 9800 Series Wireless Controller Software Configuration Guide](#)』に記載されている CLI または GUI 向けの手順を使用します。

- AP、シスココントローラ管理、および AP マネージャインターフェイス間のレイヤ 3 接続を有効にします。
- AP が接続するスイッチを設定します。詳細については、ご使用のリリースの『[Cisco Wireless Controller Configuration Guide](#)』を参照してください。
- 新しい AP が常に参加するように、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラをプライマリとして設定します。
- ネットワーク上で DHCP が有効であることを確認します。AP は、DHCP を介して IP アドレスを取得する必要があります。



（注） 802.11ax AP は、デフォルトルータ（ゲートウェイ）が DHCP サーバー上に設定されており（AP が自身のゲートウェイ IP アドレスを受け取れるようにする）、ゲートウェイ ARP が解決される場合のみ、DHCP サーバーから IP アドレスが割り当てられます。

- CAPWAP UDP ポートがネットワーク内でブロックされないようにします。
- AP は、コントローラの IP アドレスを検出する必要があります。これには、DHCP、DNS、または IP サブネットブロードキャストを使用します。このガイドでは、コントローラの IP アドレスを提供する DHCP 方式について説明します。その他の方式については、製品マニュアルを参照してください。



（注） AP には、イーサネットポートがトラフィックのボトルネックにならないように、マルチギガビットイーサネット（5 Gbps）リンクが必要です。

手順

ステップ 1 サポートされている電源を使用して AP に電力を供給します。

- AP がコントローラに接続しようとする、LED が緑色、赤色、消灯の順に切り替わります。この動作は、最大で 5 分間続きます。

（注）

AP が 5 分を超えてもこのモードのままの場合、AP がプライマリ Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラを検出できないことを示します。AP と Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの接続をチェックし、いずれも同じサブネット上にあることを確認します。

- AP がシャットダウンした場合は、電源をチェックします。
- AP は、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラを検出した後、AP コードバージョンが Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラのコードバージョンと異なる場合、新しいオペレーティング システム コードのダウンロードを試みます。この動作中は、ステータス LED が青色に点滅します。

オペレーティングシステムのダウンロードに成功すると、AP がリブートします。

ステップ 2 (オプション) AP を設定します。コントローラの CLI、GUI、または Cisco DNA Center を使用して、アクセスポイント固有の 802.11ax ネットワーク設定をカスタマイズします。

ステップ 3 設置前の設定に成功すると、ステータス LED が緑色になり、通常の動作を示します。AP を切り離して、ワイヤレスネットワーク上の配置予定場所に取り付けます。

ステップ 4 AP が通常の動作を示さない場合、電源を切り、設置前の設定を繰り返します。

(注)

レイヤ 3 アクセスポイントを Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラとは別のサブネットに設置する場合、次のセットアップが構成されていることを確認します。

- APをインストールするサブネットから DHCP サーバーに到達できること。
- コントローラに戻るルートがサブネットにあること。
- このルートで、CAPWAP 通信用の宛先 UDP ポート 5246 および 5247 が開かれていること。
- 第1、第2、および第3のコントローラに戻るルートで、IP パケットのフラグメントが許可されていること。
- アドレス移動を使用する場合、アクセスポイントおよびコントローラに、外部アドレスへの静的な 1 対 1 の NAT があること。ポートアドレス変換はサポートされていません。

設置前の確認と設置のガイドライン

アクセスポイントを取り付けて導入する前に、サイトの調査を行って（またはサイト計画ツールを使用して）アクセスポイントを設置する最適な場所を判断することを推奨します。

ご使用のワイヤレス ネットワークについて次の情報を知っておく必要があります。

- アクセス ポイントの場所
- アクセスポイントの取り付けオプション：垂直または水平の壁面または支柱
- アクセスポイントの電源オプション：次のオプションのいずれかを使用して AP に給電できます。

- DC 電源入力
 - シスコ認定パワーインジェクタ
 - 802.3at (PoE+)、802.3bt、および Cisco Universal PoE (Cisco UPOE)
 - 動作温度： $-40 \leq Ta \leq 70^{\circ}\text{C}$ ($-40 \leq Ta \leq 158^{\circ}\text{F}$)、日射負荷あり、エアフローなし。
 - コンソールポートを使用したコンソールへのアクセス
- 長さ 1 メートル以下のコンソールケーブルを使用することをお勧めします。



(注) 終端されていないコンソールケーブル（デバイスまたは端末に接続されていない）、または長さが 1 メートルを超えるコンソールケーブルを使用すると、起動中に AP で問題が発生する可能性があります。

アクセスポイントの場所を示すサイトマップを作成し、各場所のデバイスの MAC アドレスを記録して、その記録をワイヤレスネットワークを計画または管理している担当者に渡すことができるようにすることを推奨します。

アクセス ポイントの取り付け

取り付け用部品

Catalyst IW9167E アクセスポイントには、本体一体型の取り付けフランジがあります。以下の部品も使用できます。

- DIN レール取り付けブラケット
- 支柱取り付けブラケット

必要な取り付け用部品は、次のように取り付ける位置によって異なります。

- 天井、堅い天井面、壁面の場合、本体一体型の取り付けフランジを使用してアクセス ポイントを直接取り付けます。

取り付けフランジは、アクセス ポイントのポートがない辺にあります。

- 電気キャビネットまたはネットワークボックスの場合、取り付けフランジまたは DIN レール取り付けブラケットを使用して、アクセス ポイントを直接取り付けます。
- 支柱に設置する場合は、支柱取り付けブラケットを使用します。

取り付けブラケットの部品番号



(注) これらのブラケットはアクセスポイントに付属していません。個別に注文できます。

表 8: 取り付けブラケットの部品番号

取り付けブラケット	シスコの部品番号
DIN レール取り付けブラケット	AIR-ACCDMK3700=
支柱取り付けブラケット（直径2～3.2インチの支柱用）	AIR-ACCPMK3700=
支柱取り付けブラケット（直径2～16インチの支柱用）	AIR-ACCPMK3700-2=

一体型フランジマウントの使用

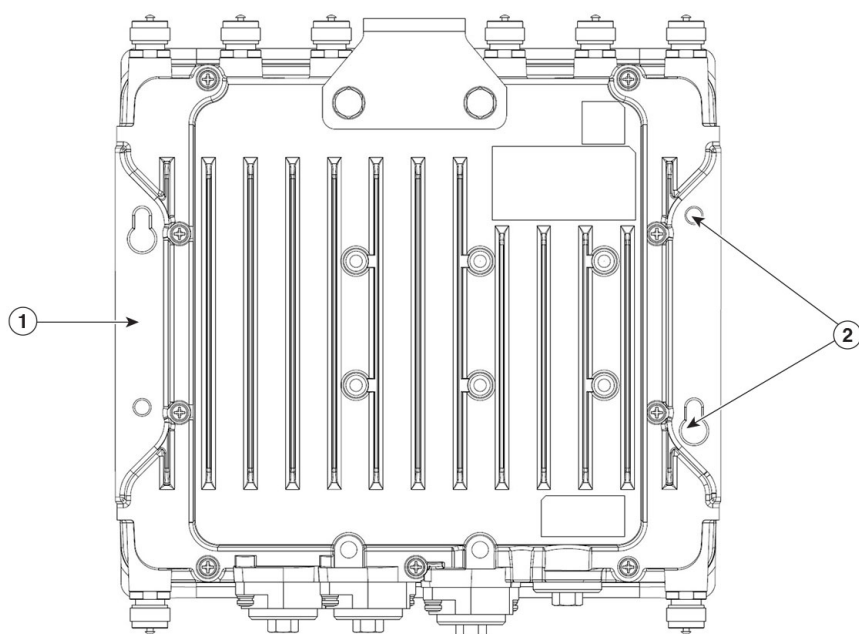
限られたスペースの場合、または強い衝撃や振動が発生する場所に設置する場合には、一体型フランジマウントを使用して直接取り付ける方法が一般的です。

一体型フランジマウントを使用してアクセスポイントを取り付けるには、次のようにします。

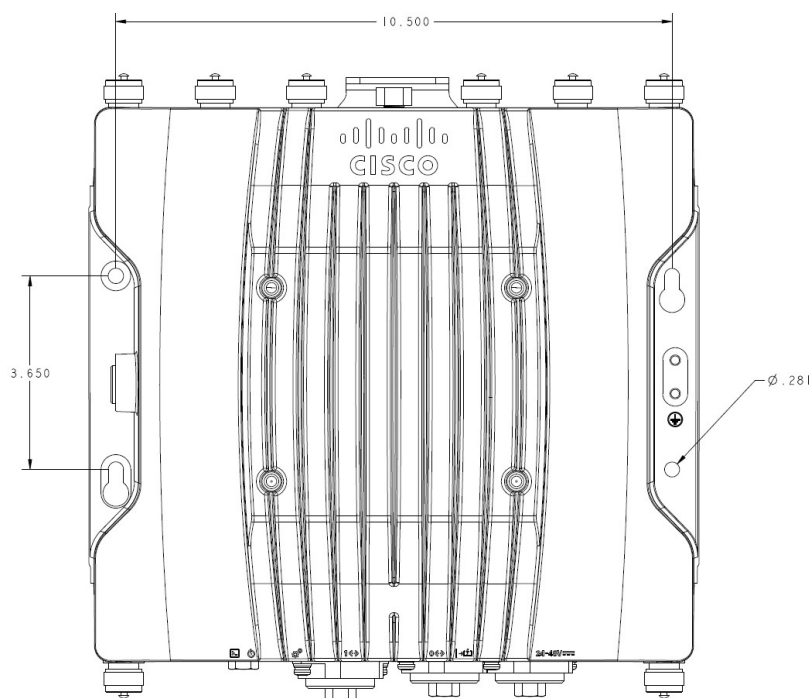
手順

ステップ1 アクセスポイントの設置には、アクセスポイントの重量を十分に支えられる場所を選んでください。

ステップ2 アクセスポイントの取り付け穴をテンプレートとして使い、取り付け場所に印を付けます。



1	メインマウントフランジ	2	取り付け穴
---	-------------	---	-------



ステップ3 取り付け面に、1/4-20 または M6 のボルトに合うプラスチック ウォール アンカー用の穴をあけ、適切なアンカーを取り付けます。

ステップ4 吊り天井の取り付け穴とアクセス ポイントの取り付け穴の位置を合わせます。

ステップ5 取り付けネジを取り付け穴 4 箇所のそれぞれに挿入し、締め付けます。

ステップ6 キーホールを使って、「ハンズフリー」インストールができます。

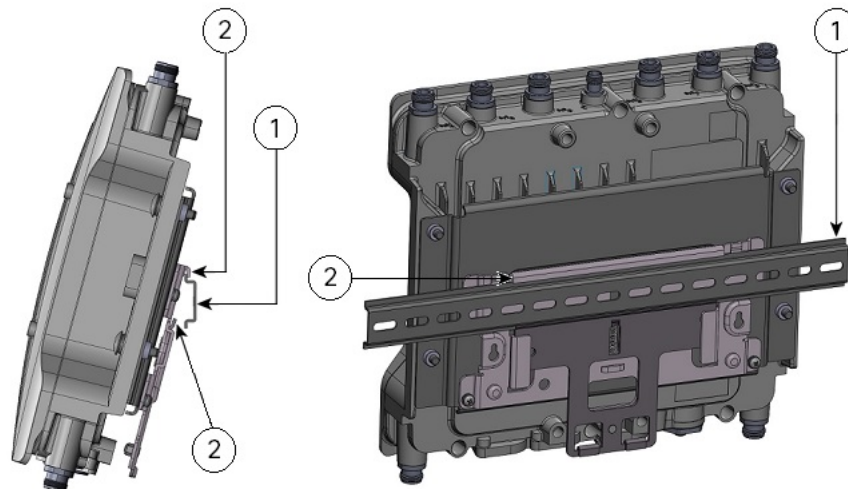
(注)

アクセス ポイントがしっかりと固定されたことを確認してください。

DIN レール取り付けブラケットの使用

DIN レール取り付けブラケットは、ネットワーククローゼットまたはキャビネット、電気クローゼットまたはキャビネット内で、または軽度の衝撃や振動がある配線室で使用できます。
[図 6: DIN レール取り付けアセンブリ \(25 ページ\)](#) に DIN レール、DIN レール取り付けアセンブリを示します。

図 6: DIN レール取り付けアセンブリ

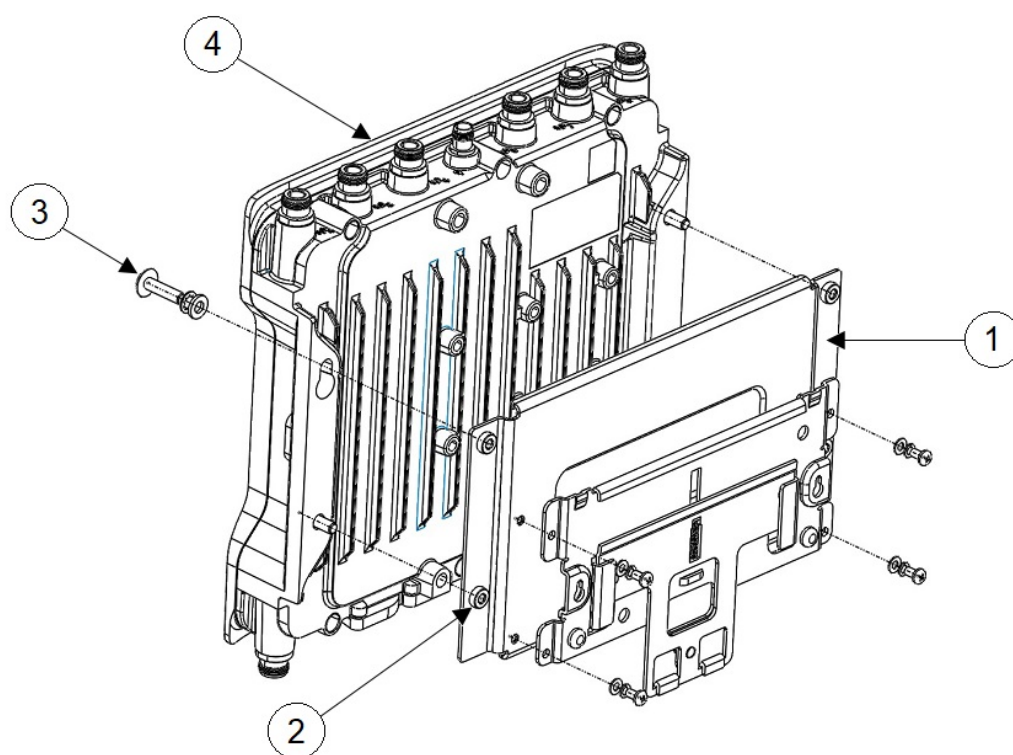


1	35 mm DIN レール (シスコによる提供なし)	2	DIN レール取り付けブラケットクリップ
---	----------------------------	---	----------------------

アクセス ポイントを DIN レールに取り付けるには、次のようにします。

手順

ステップ1 次の図に示すように、付属の M6 部品を使用してアクセス ポイントおよび DIN レール取り付けブラケットを組み立てます。



1	スチール製 DIN 取り付けブラケット	3	M6 ネジ (締め付けトルク 6 ～ 7 フィートポンド (8.1 ～ 9.5 Nm))
2	M6 挿入部	4	アクセス ポイント

ステップ 2 DIN レールの真正面でアクセス ポイント アセンブリの位置を決めます。

ステップ 3 バネ式の上部取り付けクリップの下に DIN レール取り付けブラケットを挿入します。



(注)
スリップ防止クリップに DIN レールが固定されたことを確認してください。

ステップ4 DIN レール取り付けブラケットの下側のリップが下部取り付けブラケット クリップに固定されるまで、保持ハンドルを引いて下げます。

ステップ5 保持ハンドルを離します。

支柱取り付けブラケットの使用

アクセスポイントを取り付ける支柱のサイズに応じて、次の表に挙げる支柱取り付けブラケットのどちらかを選択できます。

表 9: 支柱取り付けブラケット

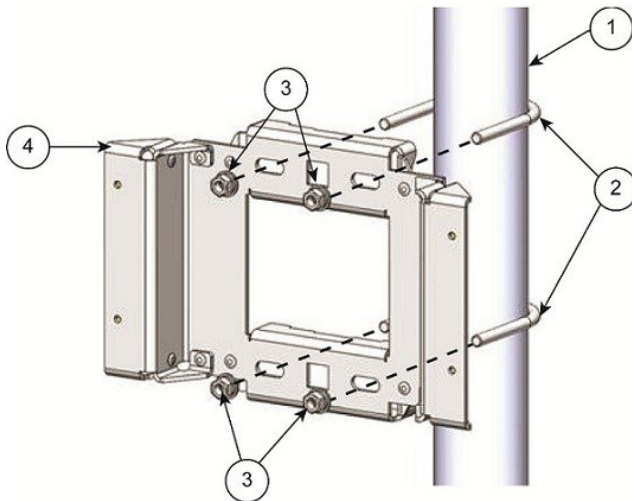
取り付けブラケット	シスコの部品番号	該当する支柱の直径
支柱取り付けブラケット	AIR-ACCPMK3700=	2 ～ 3.2 インチ
支柱取り付けブラケット 2	AIR-ACCPMK3700-2=	2 ～ 16 インチ

取り付けブラケット AIR-ACCPMK3700= の使用

取り付けブラケット AIR-ACCPMK3700= を使用してアクセス ポイントを支柱に取り付けるには、次のようにします。

手順

ステップ1 付属の U ボルト、座金、ナットを使用して、取り付けブラケットを支柱に取り付けます。



1	直径 2 ～ 3.2 インチ (5 ～ 8 cm) の支柱	3	M8 X 1.25 ナットと座金
---	-------------------------------	---	------------------

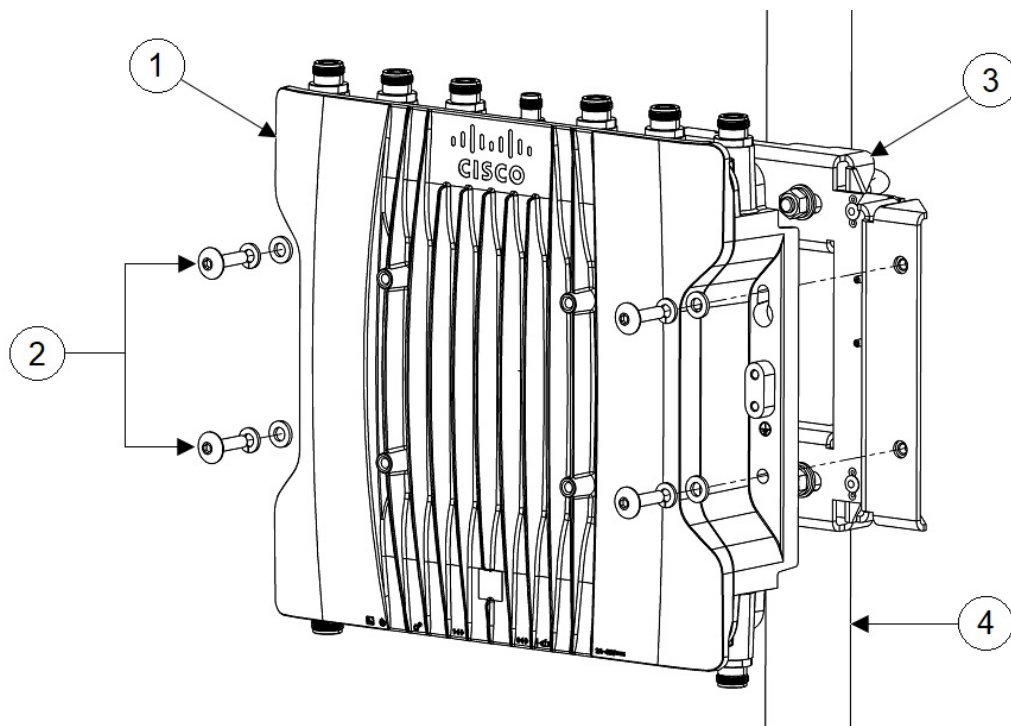
2	M8 X 1.25 U ボルト	4	支柱取り付けブラケット
---	-----------------	---	-------------

ステップ2 付属のボルト、座金、ナットを使用して、アクセスポイントをマウントプレートに取り付けます。

(注)

U ボルトの両方のナットが均等に締め付けられたことを確認してください。片側を締め付けすぎると、U ボルトがゆがみます。

ステップ3 ナットを 6 ～ 7 フィート ポンド (8.1 ～ 9.5 Nm) のトルクで締め付けます。



1	アクセス ポイント	3	支柱取り付けブラケット
2	M6 ボルトと座金	4	直径 2 ～ 3.2 インチ (5 ～ 8 cm) の支柱

(注)

アクセス ポイントが取り付けブラケットにしっかりと固定されたことを確認してください。

キーホールを使って、「ハンズフリー」インストールができます。ナットを 6 ～ 7 フィート ポンド (8.1 ～ 9.5 Nm) のトルクで締め付けていることを確認します。

注意

取り付け部品を十分なトルクで締め付けないまま、アクセス ポイントから離れないでください。

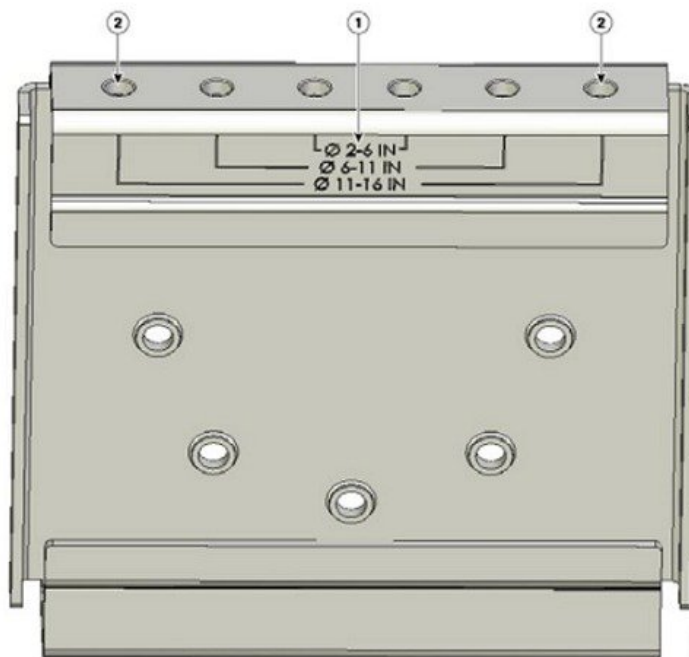
取り付けブラケット AIR-ACCPMK3700-2= の使用

取り付けブラケット AIR-ACCPMK3700-2= は、直径 2 ～ 16 インチの支柱をサポートします。取り付けブラケットを使用してアクセス ポイントを支柱に取り付けるには、次のようにします。

手順

ステップ 1 アクセス ポイントを取り付ける支柱の直径に合わせて、支柱クランプブラケットの 2 本のストラップブラケットを組み立てます。次の図に、支柱の直径インジケータと支柱クランプブラケットのボルト穴を示します。

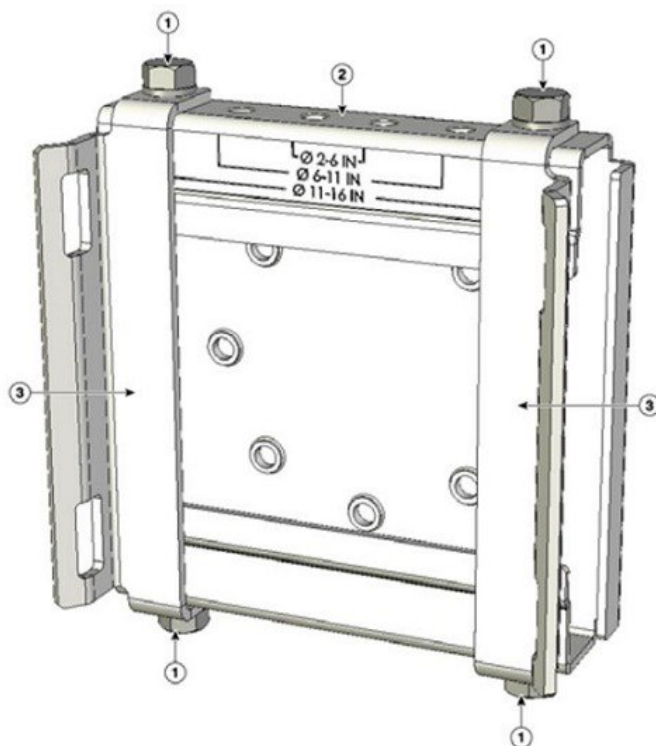
図 7: 支柱クランプ ブラケットの調整穴の位置



1	支柱サイズのインジケータ • 2 ～ 6 インチ • 6 ～ 11 インチ • 11 ～ 16 インチ
2	支柱の直径に適合するボルト穴（ここでは 11 ～ 16 インチを使用）

ステップ 2 次の図に示すように、使用する柱の直径に応じて、支柱クランプブラケットにストラップブラケットの位置を合わせ、各ストラップブラケットを 2 本の M8 x16 のボルトで（ばね座金を併用して）固定します。ボルトを 13 ～ 15 フィート ポンド（17.6 ～ 20.3 Nm）で締め付けます。

図 8: 組み立てられた支柱クランプブラケットとストラップブラケット



1	M8 x1.25x16 ボルト（ばね座金付き）	3	ストラップブラケット（直径 11 ～ 16 インチの支柱に合わせた場合）
2	支柱クランプブラケット		

ステップ 3 M8 ナットを支柱クランプブラケットの支持ボルトにねじ込み、ボルトが脱落しないようナットを十分に締め付けます。

ステップ 4 アクセスポイントを垂直の支柱に取り付ける場合は、2 本の金属帯を支柱に巻き付けてアクセスポイントをサポートする必要があります。この手順を実行するには、柱取り付けキットに付属していない工具や資材が別途必要です（詳細については、次の表を参照）。

表 10: アクセス ポイントを支柱に取り付けるために必要な資材

取り付け方法	必要な資材	キットに付属
垂直支柱	0.75 インチ (1.9 cm) のステンレス スチール製バンド 2 個	はい
	結束ストラップ用工具 (BAND IT) (Cisco AIR-BAND-INST-TL=)	いいえ
	アース ラグ (アクセス ポイントに付属)	はい
	アース ラグ用の圧着工具 (CD-720-1 ダイ付きの Panduit CT-720) (http://onlinecatalog.panduit.com)	いいえ
	#6 AWG アース線	いいえ

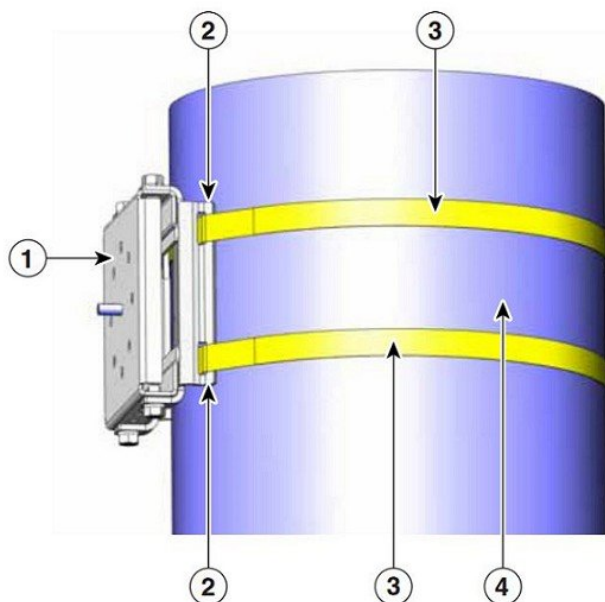
ステップ 5 アクセス ポイントを取り付ける支柱上の位置を選択します。アクセス ポイントは、直径が 5.1 ～ 40.6 cm (2 ～ 16 インチ) の支柱に取り付けることができます。

ステップ 6 支柱が 3.5 インチ (8.9 cm) より太い場合は、2 本の金属製ストラップを使用して支柱クランプブラケットアセンブリを支柱に取り付けます (次の図を参照)。ストラップ用工具 (BAND IT) (AIR-BAND-INST-TL=) に同梱されている手順に従い、ストラップブラケットのスロットを通して、各金属製ストラップを 2 回巻きます。

注意

支柱クランプブラケットとストラップブラケットの間の広いすき間を通して金属製ストラップを巻かないでください。アクセス ポイントを適切に固定できなくなります。

図 9: 3.5 インチ (8.9 cm) よりも太い支柱に取り付けたクランプ ブラケット アセンブリ



1	支柱クランプ ブラケット	3	金属製の取り付けストラップ
2	ストラップブラケットのストラップスロット	4	支柱

ステップ 7 直径が 3.5 インチ (8.9 cm) 以下の支柱の場合は、支柱クランプ ブラケットとストラップ ブラケットの間のすき間を通して巻いた 2 本の金属製ストラップを使用して、支柱クランプ ブラケットアセンブリを支柱に取り付けます。これにより、極端な環境下でも最大強度で固定できます。ストラップ用工具 (BAND IT) (AIR-BAND-INST-TL=) に同梱されている手順に従い、各金属ストラップを 2 回巻きます。

注意

支柱クランプ ブラケットとストラップ ブラケットの間の広いすき間を通して金属製ストラップを巻かないでください。アクセス ポイントを適切に固定できなくなります。

ステップ 8 必要に応じて、金属製ストラップを締める前に、支柱クランプ ブラケットを支柱に設置します。

(注)

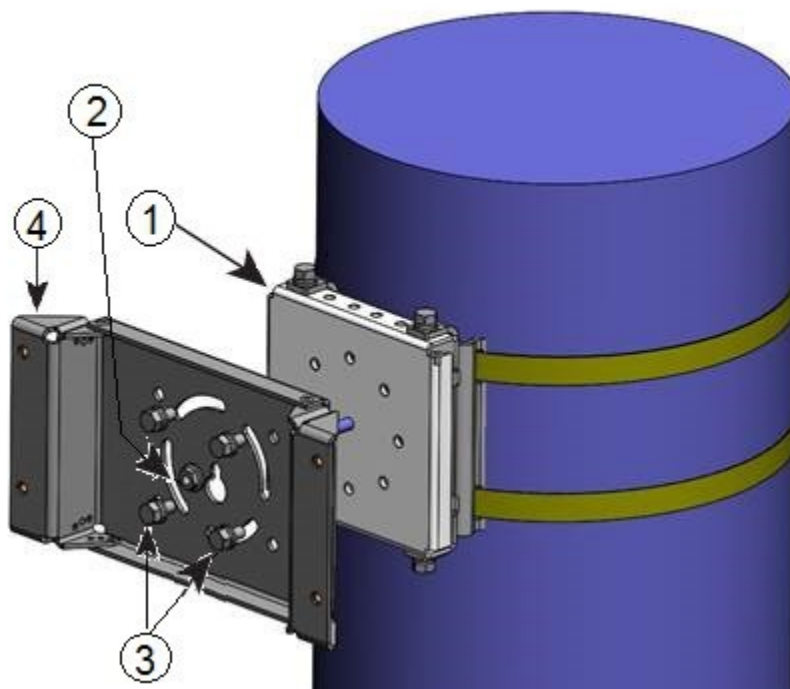
金属製ストラップを完全に締め付けると、金属製ストラップを切断または分解しない限り、支柱クランプ ブラケットを調整できなくなります。

ステップ 9 結束ストラップ用工具 (BAND IT) (Cisco AIR-BAND-INST-TL=) を使用し、工具に同梱されている手順書に従って金属ストラップを締めます。金属バンドはできる限り固く締めてください。

ステップ 10 取り付けブラケットを支柱クランプ ブラケットの支持ボルトに載せます。

ステップ 11 4 本の M8 x16 ボルト (平座金とばね座金付き) をボルト穴に取り付けます。

図 10: 取り付けブラケットと支柱クランプ ブラケット アセンブリ



1	支柱クランプ ブラケット アセンブリ	3	ボルト穴
2	アクセス ポイント支持ボルト	4	取り付けブラケット

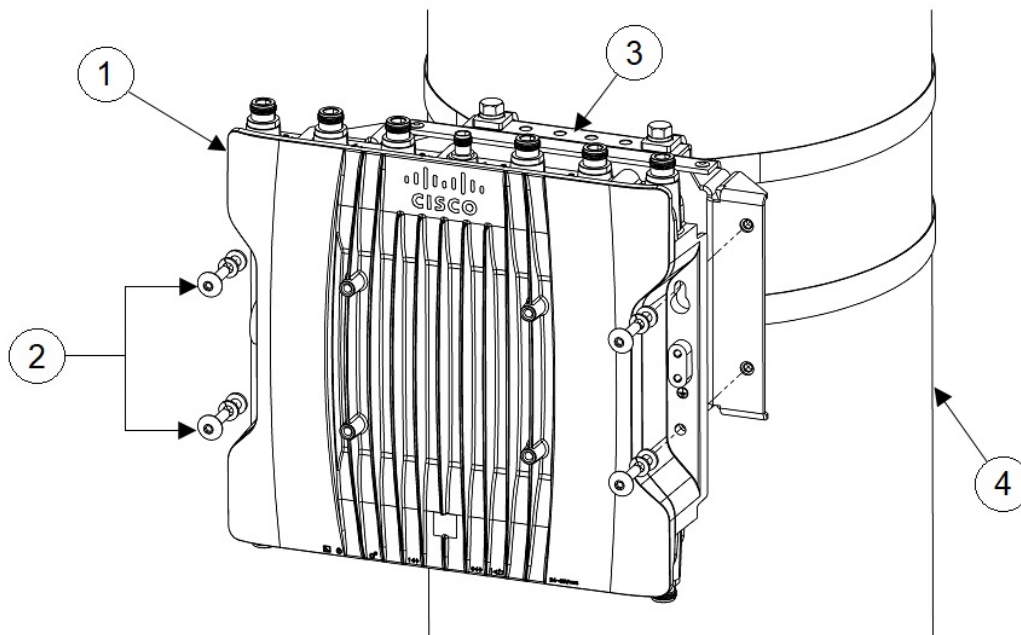
ステップ 12 ボルトとナットを手で締めます（強く締めすぎないでください）。

ステップ 13 取り付けブラケットユニットの上端が水平になるように調節し、ボルトとフランジナットを 13 ～ 15 フィート ポンド（17.6 ～ 20.3 Nm）で締めます。

ステップ 14 付属のボルト、座金、ナットを使用して、アクセス ポイントをマウントプレートに取り付けます。

ステップ 15 ナットを 6 ～ 7 フィート ポンド（8.1 ～ 9.5 Nm）のトルクで締め付けます。

図 11: 取り付けブラケットに取り付けたアクセス ポイント



1	アクセス ポイント	3	支柱取り付けブラケット
2	M6 ボルトと座金	4	支柱

（注）
アクセス ポイントが取り付けブラケットにしっかりと固定されたことを確認してください。

注意

取り付け部品を十分なトルクで締め付けないまま、アクセス ポイントから離れないでください。

アクセス ポイントの接地

すべての設置で、アクセス ポイントを取り付けた後、電源ケーブルに接続する前にユニットを適切に接地する必要があります。



警告 ステートメント 1024 - アース 導体

この装置は、接地させる必要があります。感電のリスクを軽減するため、絶対にアース 導体を破損させたり、アース 線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。



警告 ステートメント 1074 - 地域および国の電気規則への適合

感電または火災のリスクを軽減するため、機器は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。

アクセス ポイントには、アース キットが同梱されています。

図 12: アクセス ポイントのアース キットの内容

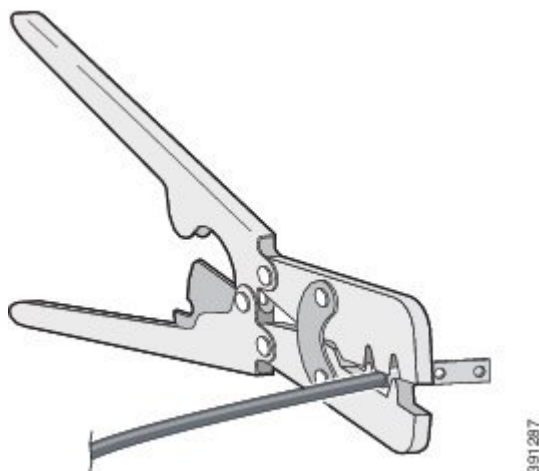


1	アースラグ	2	ネジ (M4、6mm) X 2
---	-------	---	-----------------

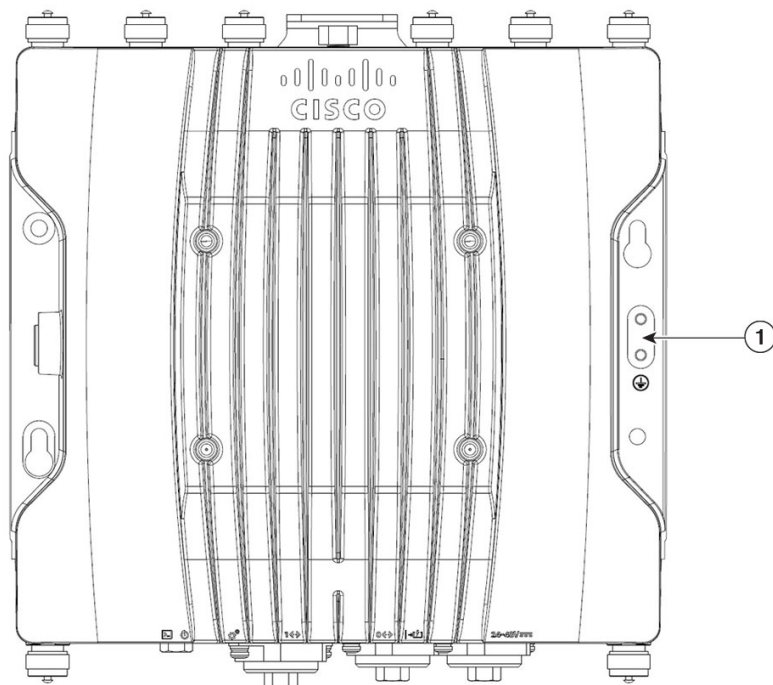
アクセス ポイントを接地する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 圧着工具を使用して、6-AWG (13.3 mm²) アース 線（アースキットには含まれない）をアースラグにしつかりと接続します。



ステップ2 同梱されたネジを使用して、同じく同梱されたアースラグを、アクセスポイントのアース接続ポイントに接続します。



1	AP アース接続ポイント
---	--------------

ステップ3 ネジを 20 ～ 25 インチポンドのトルクで締め付けます。

ステップ4 必要に応じて、アース線のもう一方の端の絶縁被覆を取り除いて、接地ロッドなどの信頼できる接地点または接地された支柱の適切な接地点に接続します。

アース ケーブルの長さは、1 m を超えないようにします。推奨は 0.5 m です。

アクセスポイントへの電源供給

AP は次の電源に対応しています。

- DC 電源 : 24 ~ 48 VDC
- Power-Over-Ethernet (PoE)

AP には、インラインパワーインジェクタまたは適切に電力が供給されるスイッチポートから PoE 入力を通して電源が供給されます。設定および規制ドメインによっては、フル稼働に必要な電力は 802.3bt または UPoE です。

詳細については、[電源 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

電源

Cisco Catalyst IW9167 シリーズ アクセスポイントは、次の電源をサポートしています。

- DC 電源入力 : 24 ~ 48 VDC、2.0 ~ 0.9 A



(注) No.18 AWG 以上の DC ケーブルを使用してください。

- Power over Ethernet (PoE) 入力 : 42.5 ~ 57 VDC、1.0 ~ 0.7 A

802.3at (PoE+)、802.3bt (PoE++)、Cisco Universal PoE (Cisco UPOE)。詳細については、[アクセスポイントへの電源供給 \(36 ページ\)](#) を参照してください。



(注) CAT5e またはそれ以上のイーサネットケーブルと 24 AWG 以上の太さの電話線コードを使用してください。



注意 Catalyst IW9167EH-HZ AP では、サードパーティ製の電源アダプタまたは PoE インジェクタを使用しないでください。



警告 ステートメント 1033 - 安全超低電圧 (SELV) : IEC 60950/ES1-IEC 62368 DC 電源

感電のリスクを軽減するため、この装置は、IEC 60950 に基づく安全基準の SELV 要件または IEC 62368 に基づく安全基準の ES1 および PS1 要件に適合した DC 電源、またはクラス 2 電源に接続してください。

イーサネット（PoE）ポート

このAPは、イーサネットアップリンクポートをサポートします（PoE入力にも対応）。RJ-45コネクタ（耐候性）を使用するイーサネットケーブルは、イーサネットデータの送受信のほか、必要に応じて、パワーインジェクタまたは適切に電源が供給されるスイッチポートからのインラインパワーの供給に使用されます。



ヒント APは、イーサネットと電源の信号を感知して、ケーブル接続に合った内部回路に自動的に切り替えます。

電源機能対照表

次の表に、APの電源と機能の対照を示します。

表 11: Catalyst IW9167EH アクセスポイントの電源機能対照表

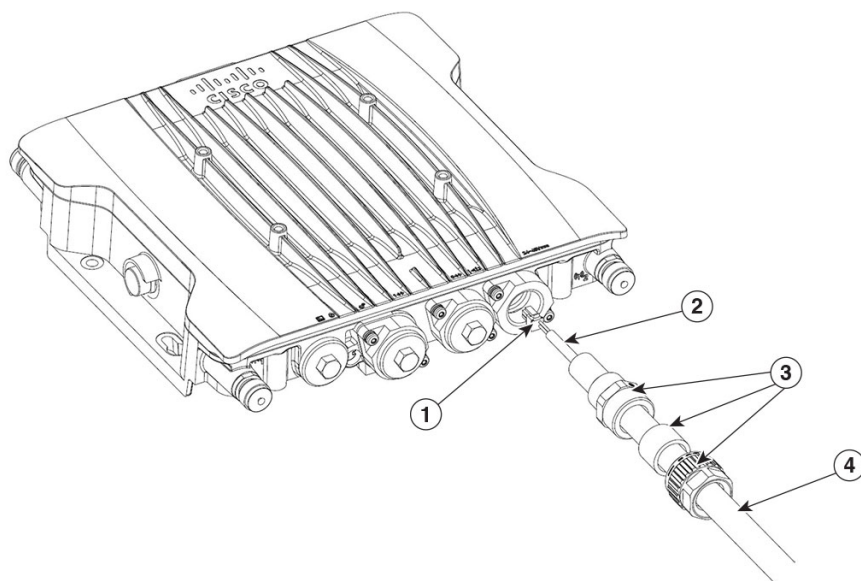
電源入力	2.4 GHz 無線機	パスあたり dBm	5 GHz 無線機	パスあたり dBm	6 GHz 無線機	パスあたり dBm	Aux 無線機	GNSS	mGig Eth	SFP
24 ~ 48 V	4 X 4	24	4 X 4	24	4 X 4	17	対応	対応	最大 5G	対応
802.3bt/UPOE	4 X 4	24	4 X 4	24	4 X 4	17	対応	対応	最大 5G	対応
802.3at	2 X 2	23	2 X 2	23	2 X 2	17	対応	対応	最大 1G	対応/1G

認定ケーブルグランドまたは Flex コンジットを使用した DC 電源ポートへの接続

認定ケーブルグランドまたは Flex コンジット（付属していません）を使用して DC 電源ポートに接続するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 M25 プラグを取り外します。製造元の指示に従ってグランドコネクタを分離し、DC ケーブルを通します。



1 4P Micro-Fit	3 グランド (Ex) (付属していません)
2 導線	4 装甲ケーブル (付属していません)

(注)

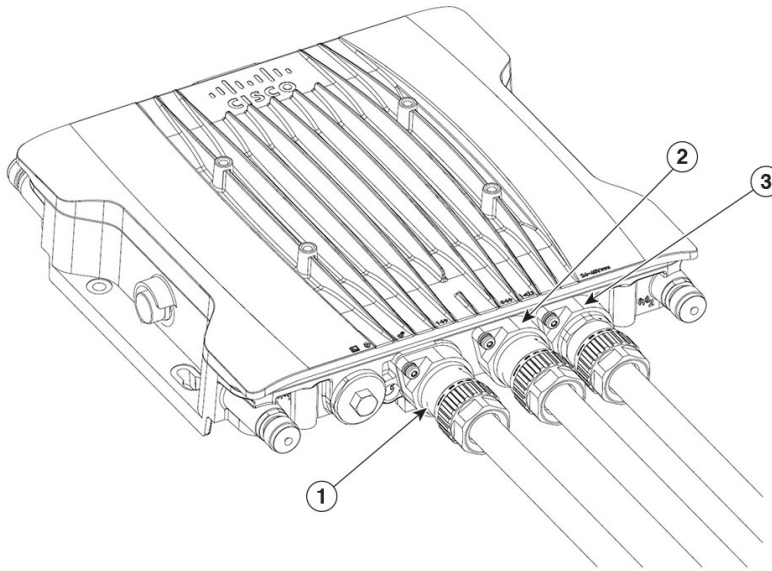
推奨されるケーブルグラウンドの仕様は M25x1.5 です。ここで、M25 は直径 (メートル)、1.5 はピッチで、アダプタにはおよそ 7 つのネジ山が必要です。推奨される M25 コネクタキャップの O リング温度定格は、91°C (195.8°F) を超えているものとします。

ステップ 2 4P コネクタケーブルをシャーシの DC コネクタに差し込みます。

ステップ 3 グランドコネクタ本体 (ガスケット付き) をシャーシにねじ込みます。

ステップ 4 グロメットをフェルールに挿入し、本体に押し込みます。

ステップ 5 グロメットが DC ケーブルを圧迫するまで、本体にクランプナットを締めます。



1	ケーブルグランドを使用して接続された SFP ポート
2	ケーブルグランドを使用して接続された RJ-45 ポート
3	ケーブルグランドを使用して接続された DC 電源ポート

データ ケーブルの接続

この AP では、イーサネットポートと Small Form-Factor Pluggable (SFP) ポート経由のデータ接続がサポートされています。

SFP ポートを使用して光ファイバケーブル経由でデータを配信する場合、AP には DC 電源、電源アダプタ、PoE+ 電源、またはパワーインジェクタから電源を供給する必要があります。

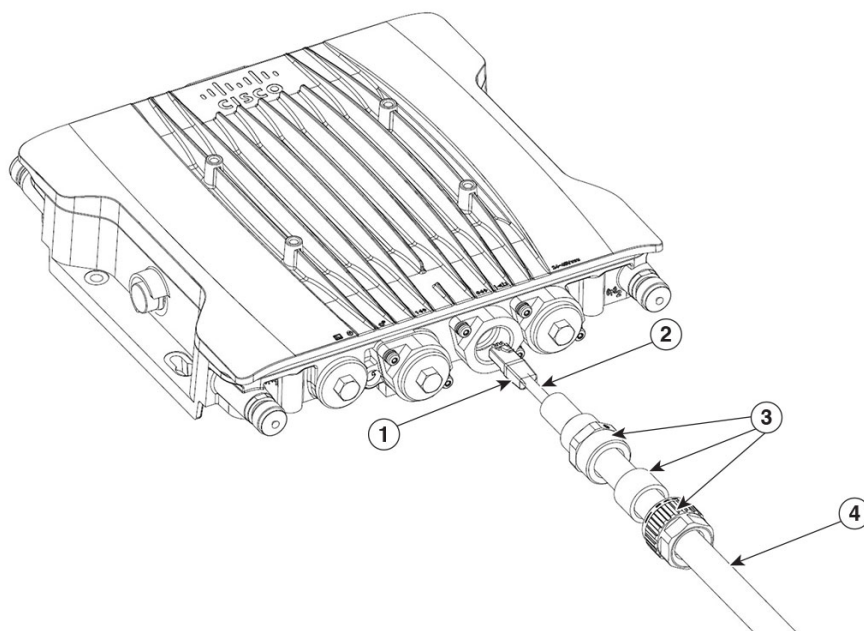
イーサネットケーブルを使用した接続

認定ケーブルグランドまたは Flex コンジットを使用した RJ-45 ポートへの接続

認定ケーブルグランドまたは Flex コンジット（付属していません）を使用して RJ-45 ポートに接続するには、次の手順に従います。

手順

ステップ 1 M25 プラグを取り外します。製造元の指示に従ってグランドコネクタを分離し、RJ-45 ケーブルを通します。



1 RJ-45 プラグ	3 グランド (Ex) (付属していません)
2 ケーブル	4 装甲ケーブル (付属していません)

(注)

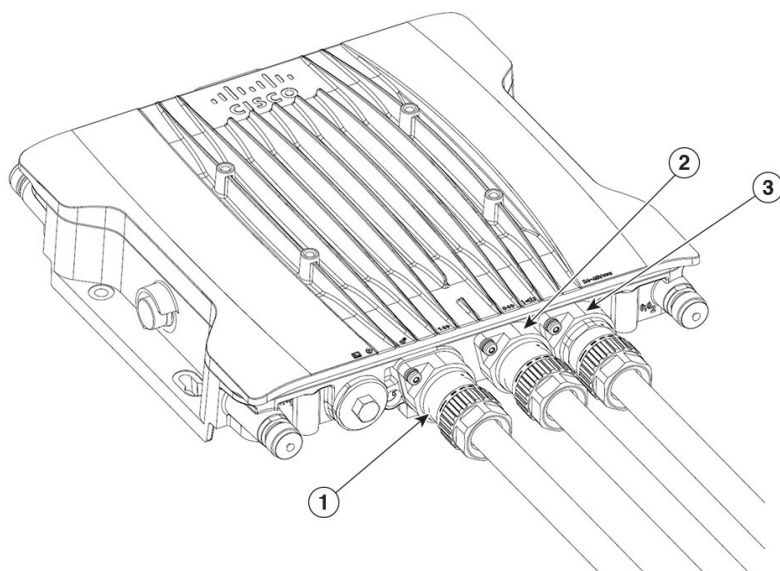
推奨されるケーブルグランドの仕様は M25x1.5 です。ここで、M25 は直径 (メートル)、1.5 はピッチで、アダプタにはおよそ 7 つのネジ山が必要です。推奨される M25 コネクタキャップの O リング温度定格は、91°C (195.8°F) を超えているものとしします。

ステップ 2 RJ-45 ケーブルをシャーシの RJ-45 コネクタに差し込みます。

ステップ 3 グランドコネクタ本体 (ガスケット付き) をシャーシにねじ込みます。

ステップ 4 グロメットをフェルールに挿入し、本体に押し込みます。

ステップ 5 グロメットが RJ-45 ケーブルを圧迫するまで、本体にクランプナットを締めます。



1	ケーブルグランドを使用して接続された SFP ポート
2	ケーブルグランドを使用して接続された RJ-45 ポート
3	ケーブルグランドを使用して接続された DC 電源ポート

光ファイバケーブルを使用した接続

ケーブルグランドを使用した SFP ポートへの接続

ケーブルグランドを使用して SFP ポートに接続するには、次の手順に従います。

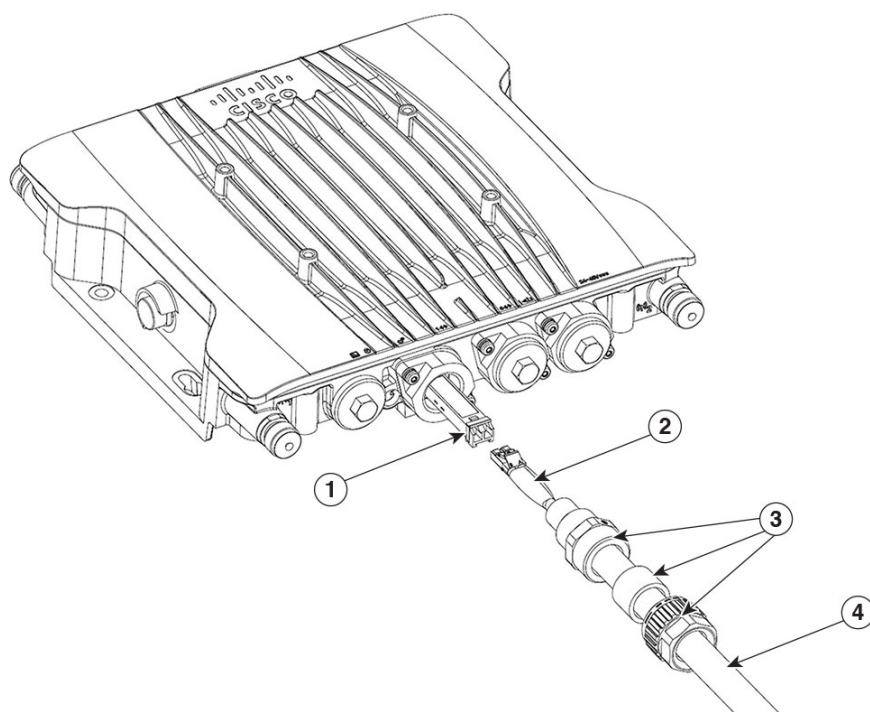


(注) 銅線 SFP またはファイバ SFP は、電源の再投入後にのみシステムによって検出されます。

手順

ステップ 1 シャーシにファイバ SFP を挿入します。

ステップ 2 ファイバアダプタを分解し、部品をファイバケーブル上にスライドさせます。



1 SFP モジュール	3 グランド (Ex)
2 導線	4 装甲ケーブル

(注)

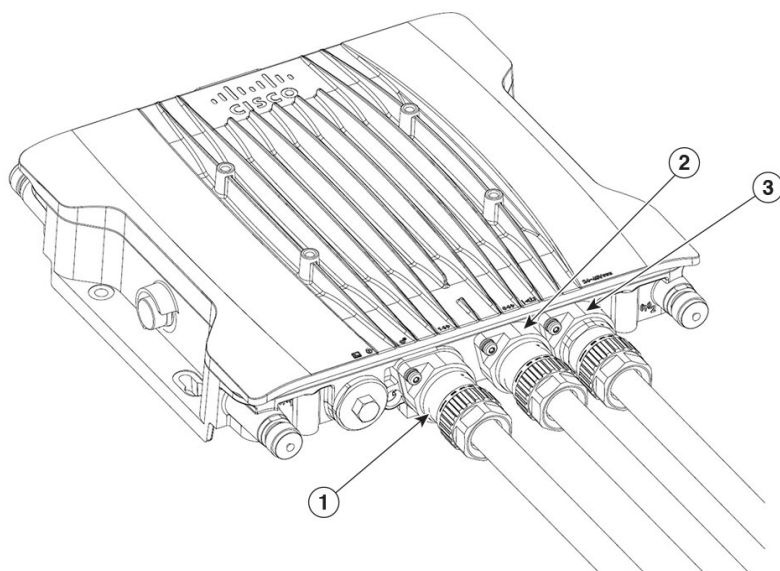
推奨されるケーブルグラントの仕様はM25x1.5です。ここで、M25は直径（メートル）、1.5はピッチで、アダプタにはおよそ7つのネジ山が必要です。推奨される M25 コネクタキャップの O リング温度定格は、91°C (195.8°F) を超えているものとします。

ステップ 3 ファイバケーブルを SFP に差し込みます。

ステップ 4 アダプタ本体（O リング付き）をシャーシにねじ込みます。

ステップ 5 グロメットをフェルールに挿入し、アダプタ本体に押し込みます。

ステップ 6 グロメットがファイバケーブルを圧迫するまで、アダプタ本体にクランプナットを締めます。



1	ケーブルグランドを使用して接続された SFP ポート
2	ケーブルグランドを使用して接続された RJ-45 ポート
3	ケーブルグランドを使用して接続された DC 電源ポート

 ケーブルグランドを使用した SFP ポートへの接続



第 4 章

アクセスポイントの設定と配置

このセクションでは、APをコントローラに接続する方法を説明します。APを設定する方法の詳細については、該当するリリースの『[Cisco Wireless Controller Configuration Guide](#)』を参照してください。

- [コントローラ ディスカバリ プロセス \(45 ページ\)](#)
- [ワイヤレスネットワークへのアクセスポイントの導入 \(46 ページ\)](#)
- [アクセスポイントの LED の確認 \(47 ページ\)](#)

コントローラ ディスカバリ プロセス

Cisco AP が AP として機能するためには、コントローラに接続し、クライアントへのサービスを開始する必要があります。シスコは、コントローラ ディスカバリ プロセスと呼ばれるプロセスを使用して、コントローラに接続します。デバイスは、中央管理型アクセスポイントプロトコル (LWAPP) を使用して相互に通信します。AP は、ネットワーク内の物理的な場所や論理的な場所に関係なく、コントローラに接続して連携できます。新しい AP には、追加設定なしで、サブネットに関係なくどこでも接続できます。接続されると、コントローラを特定し、コントローラバージョンのソフトウェアイメージと設定を取得します。この情報が AP に送信された後、クライアントへのサービスを開始できます。

注意事項と制約事項

- AP の名前にスペースが含まれていると、コントローラの CLI を使用して AP を編集したり、クエリを送信したりすることができません。
- コントローラが現在の時刻に設定されていることを確認してください。コントローラをすでに経過した時刻に設定すると、その時刻には証明書が無効である可能性があり、AP がコントローラに接続できない場合があります。

AP をネットワークで有効にするには、コントローラが AP を検出する必要があります。AP では、次のコントローラ ディスカバリ プロセスがサポートされています。

- ローカルに保存されたコントローラ IP アドレスによるディスカバリ：以前に AP がコントローラに接続されていた場合、プライマリ、セカンダリ、ターシャリの各コントローラの IP アドレスが AP の不揮発性メモリに保存されます。今後の導入用に AP にコントローラ

の IP アドレスを保存するこのプロセスは、「AP のプライミング」と呼ばれます。プライミングの詳細については、[設置前の設定（任意）（19 ページ）](#) を参照してください。

- DHCP サーバによるディスカバリ：この機能は、DHCP オプション 43 を使用して AP にコントローラの IP アドレスを割り当てます。Cisco スイッチでは、通常この機能に使用される DHCP サーバオプションをサポートしています。DHCP オプション 43 の詳細については、[DHCP オプション 43 の設定（53 ページ）](#) を参照してください。
- DNS ディスカバリ：AP はお客様のドメインネームサーバ（DNS）を介してコントローラを検出できます。AP でこれを実行するには、CISCO-CAPWAP-CONTROLLER.localdomain への応答としてコントローラの IP アドレスを返すよう、DNS を設定する必要があります。ここで、localdomain は AP ドメイン名です。CISCO-CAPWAP-CONTROLLER を設定することにより、お客様の既存の環境で下位互換性が実現します。AP は、DHCP サーバから IP アドレスと DNS の情報を受信すると、DNS に接続して CISCO-CAPWAP-CONTROLLER.localdomain を解決します。DNS からコントローラの IP アドレスのリストを受信すると、AP はコントローラに検出要求を送信します。

ワイヤレスネットワークへのアクセスポイントの導入

AP を取り付けした後、次の手順に従って AP をワイヤレスネットワークに導入します。

手順

ステップ 1 電源を接続し、AP の電源を入れます。

ステップ 2 AP の LED を確認します。

LED の説明については、[アクセスポイントの LED の確認（47 ページ）](#) を参照してください。

- a) AP の電源を入れると、電源投入シーケンスが開始されたことを AP の LED で確認できます。電源投入シーケンスに成功すると、検出および接続プロセスが開始されます。このプロセスの間、LED は緑色、赤色、消灯の順序で点滅します。AP がコントローラに接続すると、クライアントが関連付けられていない場合は LED が緑色になり、クライアントが関連付けられている場合は青色になります。
- b) LED が点灯していない場合は、おそらく AP に電源が供給されていません。
- c) LED が 5 分以上連続して点滅している場合、AP はプライマリ、セカンダリ、およびターシャリの各コントローラを検出できていません。AP とコントローラの間接続を確認し、AP とコントローラが同じサブネット上にあることや、AP がプライマリ、セカンダリ、ターシャリの各コントローラに戻る経路があることを確認してください。AP がコントローラと同じサブネット上にはない場合は、AP と同じサブネット上に正しく設定された DHCP サーバがあることを確認します。詳細については、[DHCP オプション 43 の設定（53 ページ）](#) を参照してください。

ステップ 3 このコントローラがプライマリコントローラにならないように再設定します。

（注）

プライマリコントローラは、APのみを設定するために使用します。稼働中のネットワークでは、このコントローラを使用しないでください。

アクセスポイントの LED の確認

AP のステータス LED の位置は、[コネクタおよびポート \(5 ページ\)](#) に示されています。



- (注) LED ステータスの色は、装置ごとに色の強さおよび色彩が若干異なります。これは、LED メーカーの仕様の正常な範囲内であり、障害ではありません。ただし、LED の強さはコントローラから変更できます。

AP のステータス LED はさまざまな状態を示します。次の表で詳細を説明します。

表 12: AP の LED 信号

LED メッセージタイプ	色	意味
ブートローダの状態シーケンス	緑色の点滅	ブートローダの状態シーケンス • DRAM メモリ テスト中 • DRAM メモリ テスト OK • ボードの初期化中 • フラッシュ ファイル システムの初期化中 • フラッシュ メモリ テスト OK • イーサネットの初期化中 • イーサネット OK • AP OS の起動中 • 初期化成功

LED メッセージタイプ	色	意味
ブートローダの警告	赤色の点滅	設定リカバリが進行中（リセットボタンが2～3秒長押しされた場合）
	赤色の点灯	イーサネット障害またはイメージリカバリが発生（リセットボタンが20～30秒長押しされた場合）
	緑色の点滅	イメージリカバリが進行中（リセットボタンがリリースされた）
CAPWAP OS		
アソシエーションの状態	点灯時間の短い緑色の点滅	この状態は、通常の動作状態を示します。ユニットはコントローラに結合されていますが、ワイヤレスクライアントが関連付けられていません。
	緑色の点灯	正常な動作状態で、少なくとも1台のワイヤレスクライアントが装置にアソシエートされています。
動作状態	橙色の点滅	ソフトウェアアップグレードが進行中
	緑色、赤色、橙色の繰り返し	検出または接続プロセスが進行中
	赤色、緑色、橙色の点灯と消灯の素早い切り替わり	この状態は、APのロケーションコマンドが呼び出されたことを示します。
	赤色の点滅	この状態は、イーサネットリンクが機能していないことを示しています。
	赤色、緑色、橙色の繰り返し	これは、インラインパワーが不十分な時の一般的な警告です。
Cisco URWB OS		
リンク品質/SNRインジケータ	緑色の点滅	SNR 非常に良好 (≥ 25)
	フェードイン（緑色）	SNR 良好 ($15 \leq x < 25$)
	フェードイン（橙色）	SNR 不良 ($10 \leq x < 15$)
	フェードイン（赤色）	SNR 許容範囲外 (< 10)

LED メッセージタイプ	色	意味
動作状態	赤色、緑色、橙色の繰り返し	これは、インラインパワーが不十分な時の一般的な警告です。
リンボー（プロビジョニング）モード：フォールバック	点灯時間の短い橙色の点滅	DHCP サーバーに IP アドレスを要求している状態。
リンボー（プロビジョニング）モード：DHCP	橙色	このステータスは、IP アドレスが DHCP サーバーから取得されたことを示します。



第 5 章

トラブルシューティング

- リセット ボタンの使用 (51 ページ)
- コントローラへのアクセスポイント参加プロセスのトラブルシューティング (52 ページ)
- コントローラベースの導入に関する重要な情報 (52 ページ)
- DHCP オプション 43 の設定 (53 ページ)

リセット ボタンの使用

リセットボタン (コネクタおよびポート (5 ページ) を参照) を使用して、AP を工場出荷時のデフォルトにリセットしたり、AP の内部ストレージをクリアしたりできます。



(注) リセットボタンを使用しても、起動 OS (CAPWAP または URWB) は変更されません。

AP を工場出荷時のデフォルト設定にリセットするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** アクセスポイントのリセットボタンを押し、AP の起動サイクルが終わるまで押したままにします。
- ステップ 2** AP のステータス LED が赤色の点滅に変わるまで押します。これは、u-boot がリセット信号をキャッチしたことを示します。
- ステップ 3**
 - AP を工場出荷時のデフォルト設定にリセットするには、リセットボタンを押し、20 秒が経過する前に放します。AP のコンフィギュレーションファイルがクリアされます。
 - すべての構成ファイルを含む AP の内部ストレージをクリアするには、リセットボタンを 20 秒以上押したままにし、60 秒が経過する前に放します。

(注)

- リセットボタンを 30 秒以上 (60 秒未満) 押すと、AP が工場出荷時設定にリセットされる際に FIPS モードフラグもクリアされます。FIPS フラグが設定されている場合、コンソールアクセスは無効になります。

- AP のステータス LED が赤色の点灯に変わり、AP のストレージディレクトリからすべてのファイルが削除されます。
- リセットボタンを押したまま 60 秒以上が経過した場合は、操作の誤りと見なされて、変更は行われません。

コントローラへのアクセスポイント参加プロセスのトラブルシューティング

AP がコントローラへの接続に失敗する理由として、RADIUS の認可が保留の場合、コントローラで自己署名証明書が有効になっていない場合、AP とコントローラ間の規制ドメインが一致しない場合など、多くの原因が考えられます。

コントローラソフトウェアの利用により、CAPWAP 関連のすべてのエラーを syslog サーバに送信するように AP を設定できます。コントローラで `debug` コマンドを有効にする必要はありません。syslog サーバ自体からの CAPWAP エラーメッセージをすべて表示します。

AP からの CAPWAP 接続要求を受信するまで、コントローラ上で AP は維持管理されません。したがって、特定の AP からの CAPWAP 検出要求が拒否された理由を判断することは難しい場合があります。コントローラで CAPWAP `debug` コマンドを有効にせずにこのような接続問題のトラブルシューティングを行えるよう、コントローラでは検出メッセージを送信してきたすべての AP の情報を収集し、正常に接続した AP の情報を保持します。

コントローラは、CAPWAP 検出要求を送信してきた各 AP について、接続に関連したすべての情報を収集します。情報収集は、AP から最初に受信した検出メッセージから始まり、コントローラから AP に送信された最後の設定ペイロードで終わります。

コントローラが最大数の AP の接続関連情報を保持している場合、それ以上の AP の情報は収集されません。

デフォルトでは、1 台の AP からすべての syslog メッセージが IP アドレス 255.255.255.255 に送信されます。

DHCP サーバで syslog サーバの IP アドレスを AP に返すよう設定することもできます。サーバ上でオプション 7 を使用します。そのように設定すると、AP はすべての syslog メッセージをこの IP アドレスに送信するようになります。

AP の syslog サーバーを設定して、AP の接続情報をコントローラの CLI インターフェイス以外では表示しないようにすることができます。

コントローラベースの導入に関する重要な情報

この AP を使用する場合は、次のガイドラインに留意してください。

- この AP はシスコ製コントローラのみと通信できます。
- AP は、無線ドメインサービス (WDS) をサポートしていないので、WDS デバイスとは通信できません。ただし、AP がコントローラに接続されると、コントローラが WDS に相当する機能を果たします。
- CAPWAP はレイヤ 2 をサポートしていません。この AP では、レイヤ 3、DHCP、DNS、または IP サブネットのブロードキャストを使用して IP アドレスを取得し、コントローラを検出する必要があります。
- AP のコンソールポートは、モニタリングおよびデバッグの目的で使用できるようになっています。AP がコントローラに接続されると、すべてのコンフィギュレーション コマンドが無効になります。

DHCP オプション 43 の設定

DHCP オプション 43 を使用すると、コントローラの IP アドレスのリストが AP に提供されるため、AP がコントローラを検出し、コントローラに接続できるようになります。

次に、Cisco Catalyst Lightweight AP 用 Microsoft Windows 2003 エンタープライズ DHCP サーバでの DHCP オプション 43 の設定例を示します。その他の DHCP サーバの実装に関する DHCP オプション 43 の設定については、製品マニュアルを参照してください。オプション 43 では、コントローラ管理インターフェイスの IP アドレスを使用します。



- (注) DHCP オプション 43 では、1 つの DHCP プールを 1 種類の AP だけに割り当てることができます。AP の種類別に、異なる DHCP プールを設定する必要があります。

AP では、DHCP オプション 43 に Type-Length-Value (TLV) 形式を使用します。DHCP サーバは、AP の DHCP ベンダークラス ID (VCI) 文字列 (DHCP オプション 60) に基づいてオプションを返すようにプログラミングされている必要があります。AP の VCI 文字列は、次のとおりです。

TLV ブロックの形式は、次のとおりです。

- 型 : 0xf1 (10 進数 241)
- 長さ : コントローラの IP アドレス数 * 4
- 値 : 16 進数形式で順番にリストされているコントローラ管理インターフェイスの IP アドレス

手順

ステップ 1 Cisco IOS の CLI でコンフィギュレーション モードに切り替えます。

ステップ 2 デフォルトのルータやネームサーバなどの必要なパラメータを指定して、DHCP プールを作成します。DHCP スコープの例を次に示します。

例 :

```
ip dhcp pool <pool name>
network <IP Network> <Netmask>
default-router <Default router>
dns-server <DNS Server>
```

それぞれの説明は次のとおりです。

例 :

```
<pool name> is the name of the DHCP pool, such as IW9167EH
<IP Network> is the network IP address where the controller resides, such as 10.0.15.1
<Netmask> is the subnet mask, such as 255.255.255.0
<Default router> is the IP address of the default router, such as 10.0.0.1
<DNS Server> is the IP address of the DNS server, such as 10.0.10.2
```

ステップ 3 次の構文に従って、オプション 43 の行を追加します。

例 :

```
option 43 hex <hex string>
```

16 進文字列には、次の TLV 値を組み合わせて指定します。

型 + 長さ + 値

たとえば、管理インターフェイスの IP アドレス 10.126.126.2 および 10.127.127.2 を持ったコントローラが 2 つあるとします。型は、f1 (16 進数) です。長さは、 $2 \times 4 = 8 = 08$ (16 進数) です。IP アドレスは、0a7e7e02 および 0a7f7f02 に変換されます。文字列を組み合わせると f1080a7e7e020a7f7f02 になります。DHCP スコープに追加される Cisco IOS のコマンドは、**option 43 hex f1080a7e7e020a7f7f02** となります。



第 6 章

安全に関するガイドラインおよび警告

- [安全上の注意事項（55 ページ）](#)
- [FCC 安全基準（56 ページ）](#)
- [安全上の注意（56 ページ）](#)
- [アンテナを取り付ける際の安全上の注意（57 ページ）](#)
- [テスト環境での無線機の損傷の回避（58 ページ）](#)
- [サイト調査の実行（59 ページ）](#)

安全上の注意事項

この翻訳された警告は、Cisco.com から入手できる『Translated Safety Warnings for Cisco Catalyst Access Points』で確認できます。



警告 ステートメント 1071 - 警告の定義

安全上の重要な注意事項

装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。使用、設置、電源への接続を行う前にインストール手順を読んでください。各警告の冒頭に記載されているステートメント番号を基に、装置の安全についての警告を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。



**警告** ステートメント 1005 - 回路ブレーカー

この製品は、設置する建物にショート（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。感電または火災のリスクを軽減するため、保護対象の装置は次の定格を超えないようにします。

20 A

**警告** ステートメント 9001 - 製品の廃棄

本製品の最終処分は、各国のすべての法律および規制に従って行ってください。

**注意** 電源アダプタの電源コードは、アース接続のあるコンセントに接続してください。**警告** ステートメント 1074 - 地域および国の電気規則への適合

感電または火災のリスクを軽減するため、機器は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。

**警告** ステートメント 1008 - クラス 1 レーザー製品

クラス 1 レーザー製品です。

FCC 安全基準

FCC は、ET Docket 96-8 での決定により、FCC 認証機器が放射する RF 電磁エネルギーに人体が晒される場合の安全基準を採択しています。承認済みのシスコ製アンテナを使用する場合、Cisco Catalyst 製品は、OET-65 および ANSI C95.1、1991 に明記されている非制御製品の環境に対する制限事項を満たしています。この文書の指示に従ってこの無線装置を適切に操作すると、ユーザへの照射は FCC 推奨限界値よりもかなり低く抑えられます。

安全上の注意

安全を確保し、適切に設置するために、次の安全に関する注意事項を読み、その指示に従ってください。



(注) Ex デバイスの推奨動作時の圧力範囲は、80 kPa (0.8 bar) ～ 110 kPa (1.1 bar) の間です。

- 安全性と性能を念頭に置いて、取り付け場所を決定します。電力線と電話回線は類似していることに注意してください。どのような架空線であっても、感電事故の危険性があると見なすようにします。
- 電力会社にお問い合わせください。設置計画を通知し、設置案を実際に見て確認するように依頼してください。
- 取り付けを開始する前に、取り付け手順を綿密に計画します。支柱やタワーを正常に設置できるかどうかは、作業の連携に大きく依存します。各作業員はそれぞれ特定のタスクを受け持ち、そのタスクの内容とタイミングを認識している必要があります。1人の作業員が作業の責任者となって指示を出し、トラブルの兆候がないかを注視します。
- AP やアンテナを設置する際は、次の点に注意してください。
 - 金属製のはしごを使用しない。
 - 雨の日や風の強い日には作業しない。
 - 適切な衣服を着用する。靴底とかかと部分がゴム製の靴、ゴム製の手袋、長袖のシャツまたはジャケットを着用する。
- AP を持ち上げる際はロープを使用します。組み立て部品が落下しかけた場合は、その場所から離れ、部品をそのまま落としてください。
- アンテナシステムの一部が電力線に接触した場合は、その部分に触ったり、自分で取り除こうとしたりしないでください。現地の電力会社にお問い合わせください。電力会社の担当者が安全に取り除きます。

事故が発生した場合は、ただちに有資格者に連絡してください。

アンテナを取り付ける際の安全上の注意

- アンテナを取り付ける前に、取り付けようとしているアンテナのサイズと種類に適した取り付け方法について、シスコ代理店に問い合わせてください。
- 安全性と性能を念頭に置いて、取り付け場所を決定します。電力線と電話回線は類似していることに注意してください。どのような架空線であっても、感電事故の危険性があると見なすようにします。
- 電力会社にお問い合わせください。計画の内容を伝え、提案する設置方法の概要を見てもらうように依頼します。
- 取り付けを開始する前に、取り付け手順を綿密に計画します。設置に関係する各担当者はそれぞれ特定のタスクを受け持ち、実行する内容とタイミングを認識している必要があります。

ます。1 人の作業員が作業の責任者となって指示を出し、トラブルの兆候がないかを注視します。

- アンテナの設置時には、次のガイドラインに従ってください。
 - 金属製のはしごを使用しない。
 - 雨の日や風の強い日には作業しない。
 - 適切な衣服を着用する。靴底とかかと部分がゴム製の靴、ゴム製の手袋、および長袖のシャツまたはジャケットを着用する。
- 組み立て部品が落下しかけた場合は、その場所から離れ、部品をそのまま落としてください。アンテナ、マスト、ケーブル、金属製の支線は、すべてが電流を非常によく通すため、これらの部品のいずれかが電力線にわずかに触れただけでも、アンテナと設置者を經由する電気回路が形成されます。
- アンテナシステムの一部が電力線に接触した場合は、その部分に触ったり自分で取り除こうとしたりしないでください。地域の電力会社に問い合わせ、安全に取り除いてもらいます。
- 電力線で事故が発生した場合は、すぐに有資格の緊急救助組織に連絡してください。

テスト環境での無線機の損傷の回避

屋外ユニット（ブリッジ）の無線機は、屋内ユニット（AP）よりも送信電力レベルが高く設定されています。リンク内で大電力無線機をテストする場合は、受信機の最大受信入力レベルを超えないようにする必要があります。通常の動作範囲を超えると、パケットエラー率（PER）の性能が低下します。より高いレベルでは、受信機が恒久的に損傷を受けるおそれがあります。受信機への損傷および PER の低下を防ぐには、次のいずれかの技術を使用します。

- 受信機への損傷を避けるには、無指向性アンテナ間の距離を 2 フィート（0.6 m）以上離し、PER の低下を避けるには、25 フィート（7.6 m）以上離します。



（注）これらの距離は、自由空間パス損失を想定しているため、安全寄りに見積もられています。実際の導入において、見通しが得られない場合には、損傷および性能低下を防ぐために必要な距離を短くすることができます。

- 送信電力の設定を、最小レベルに変更します。
- 指向性アンテナを使用し、お互い相手に向けないように維持します。
- アンテナ、合成器、または分配器を組み合わせて使用し、総減衰量が 60 dB 以上になるように無線機を配線します。

放射テストベッドにおける送信電力、アンテナ利得、減衰、および受信機感度の関係は、次の式によって表されます。

```
txpwr + tx gain + rx gain - [attenuation due to antenna spacing] < max rx input level
Where:
txpwr = Radio transmit power level
tx gain = transmitter antenna gain
rx gain = receiver antenna gain
```

伝導テストベッドにおける送信電力、アンテナ利得、および受信機感度の関係は、次の式によって表されます。

```
txpwr - [attenuation due to coaxial components] < max rx input level
```



注意 どのような場合でも、RF 減衰器を使用せずに 1 つの AP から別の AP のアンテナポートに接続しないでください。アンテナポート間を接続する場合は、最大非破壊受信レベルである 0 dBm を超えないようにする必要があります。0 dBm を超えると、AP が損傷を受けるおそれがあります。総減衰量が 60 dB 以上の減衰器、合成器、および分配器を使用すると、受信機が損傷したり、PER 性能が低下したりすることはありません。

サイト調査の実行

ネットワーク アプリケーションごとに特有の設置方法があります。複数の AP を設置する前に、ネットワークコンポーネントの最適な使用方法を決定し、飛距離、カバー範囲、およびネットワーク性能を最大限高めるため、サイト調査を実行する必要があります。

サイト調査によって、ネットワークを起動する前に解決可能な問題が明らかになります。802.11a/b/g/n/ac/ax は免許不要の周波数帯域で動作するため、802.11 信号を低下させる可能性がある、他の 802.11a 無線デバイス（特にマルチテナントの建物において）からの干渉源が存在することがあります。サイト調査によって、そうした干渉が配置時に存在するかどうかを確認できます。

サイト調査を実施する際は、次の動作条件および環境条件を考慮してください。

- データレート：感度と飛距離は、データビットレートに反比例します。無線の飛距離は、動作可能なデータレートが最も低いときに最大になります。無線データが増加すると受信機の感度が低下します。
- アンテナの種別と配置：無線の飛距離を最大化するには、アンテナの適切な構成が不可欠です。一般に、飛距離はアンテナの高さに比例して長くなります。ただし、位置が高すぎると、他の免許不要無線システムからの干渉を受けやすくなり、地上に対する無線カバー範囲が減少するため、アンテナを必要以上に高い位置に取り付けしないでください。
- 物理的な環境：閉鎖された場所や障害物が多い場所よりも、見通しのよい場所や開放された場所の方が無線の飛距離は長くなります。

- 障害物：建造物、樹木、丘などの物理的な障害物があると、無線デバイスの性能が低下する場合があります。送信アンテナと受信アンテナの間に障害物がある場所には、デバイスを配置しないでください。
- ワイヤレスリンクの距離はどのくらいか？
- 以前にサイト調査を行ったか？
- AP 間に障害物のないフレネルゾーンまたは電波の見通し線はあるか？
- リンク内で許容される最低データレートは？
- 正しいアンテナがあるか（複数のアンテナ提供時）？
- （必要であれば）適切な許可を得ているか？
- 適正な安全手順と方法に従っているか？
- 現地に行く前に AP を設定したか？設定やデバイスの問題を先に解決しておく、作業は常に楽になります。
- 調査を実行するための適切なツールや機器があるか？



第 7 章

危険場所での設置に関する安全ガイドラインおよび警告

- 危険場所での設置に関する警告および注意事項 (61 ページ)
- 設置前のその他の考慮事項 (63 ページ)
- 静電放電の回避 (64 ページ)
- メンテナンスの実施 (64 ページ)
- アクセス ポイントの使用の中止 (64 ページ)
- 防爆標準規格およびマーキングの文字列 (65 ページ)

危険場所での設置に関する警告および注意事項



警告 ステートメント 1071 - 警告の定義

安全上の重要な注意事項

装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。使用、設置、電源への接続を行う前にインストール手順を読んでください。各警告の冒頭に記載されているステートメント番号を基に、装置の安全についての警告を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。



警告 ステートメント 1017 - 立ち入り制限区域

この装置は、出入りが制限された場所に設置されることを想定しています。熟練者、教育を受けた担当者、または資格保持者のみが立ち入り制限区域に入ることができます。

**警告** ステートメント 1022 - デバイスの切断

感電または火災のリスクを軽減するため、容易にアクセス可能な切断装置を固定配線に組み込む必要があります。

**警告** ステートメント 9001 - 製品の廃棄

本製品の最終処分は、各国のすべての法律および規制に従って行ってください。

**警告** ステートメント 1046 - 装置の設置または交換

感電のリスクを軽減するため、装置を設置または交換するときには、必ずアースを最初に接続し、最後に取り外します。

装置にモジュールがある場合は、提供されたネジで固定してください

**警告** ステートメント 1062 - 取り外し前の電源の切断

爆発の危険性：必ず、本機器の電源を切るか、または周囲が危険な状態でないことを確認してから、本機器のコネクタを接続または取り外してください。この機器に接続する外部接続は、製品に付属されているネジ、スライドラッチ、ネジ式コネクタ、またはその他の方法で固定してください。

**警告** ステートメント 1074 - 地域および国の電気規則への適合

感電または火災のリスクを軽減するため、機器は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。



警告 装置またはネットワーク上のデバイスに電源が入った状態でコンソールケーブルを接続または接続を取り外すと、電気アークが発生する可能性があります。これは、危険場所への設置中に爆発を引き起こす原因となります。電源が入っていないことを確認するか、またはそのエリアが危険でないことを確認してから作業を進めてください。



注意 この装置は、クラス I、ディビジョン 2、グループ A、B、C、D または危険場所以外での使用に対応しています。

安全を確保し、適切に設置するために、次の安全に関する注意事項を読み、その指示に従ってください。

- Cisco Catalyst IW9167E Heavy Duty アクセスポイントは、アンテナを上向きにして垂直に設置するように設計されています。他の取り付け方向では、防爆準拠に必要な IP66/67 およびタイプ 4X 保護等級を損ないます。
- 安全性と性能を考慮して、設置場所を選択してください。電力線と電話回線は類似していることに注意してください。どのような架空線であっても、感電事故の危険性があると見なすようにします。
- 電力会社にお問い合わせください。設置計画を伝え、設置案を実際に見て確認するよう依頼してください。
- 取り付けを開始する前に、取り付け手順を綿密に計画します。マストやタワーを正常に構築できるかどうかは、作業の連携に大きく依存します。各作業員はそれぞれ特定のタスクを受け持ち、そのタスクの内容とタイミングを認識している必要があります。1 人の作業員が作業の責任者となって指示を出し、トラブルの兆候がないかを注視します。
- アクセス ポイントおよびアンテナの設置時には、次の点に留意してください。
 - 金属製のはしごを使用しない。
 - 雨の日や風の強い日には作業しない。
 - 適切な衣服を着用する。靴底とかかと部分がゴム製の靴、ゴム製の手袋、および長袖のシャツまたはジャケットを着用する。
- アクセスポイントを持ち上げる際はロープを使用します。組み立て部品が落下しかけた場合は、その場所から離れ、部品をそのまま落としてください。
- アンテナシステムの一部が電力線に接触した場合は、その部分に触ったり自分で取り除こうとしたりしないでください。現地の電力会社にお問い合わせください。電力会社の担当者が安全に取り除きます。

事故が発生した場合は、ただちに有資格者に連絡してください。

設置前のその他の考慮事項

ここでは、クラス I、ディビジョン 2、ゾーン 2 の危険場所に設置する Catalyst IW9167EH-HZ アクセスポイントを準備する際の特別な考慮事項について説明します。



- (注) このマニュアルでは、コンジットの取り付けに関する具体的な手順については説明していません。設置技術および手順が、設置する地域の Class I、Division 2/Zone 2 の防爆規格に適合していることを確認する必要があります。



(注) 3/4 インチ NPT コンジットを Catalyst IW9167EH-HZ モデルの I/O ポートにねじ込むことはしないでください。

設置する前に Loctite 565 スレッドシーラントをネジ山に塗布する必要があります。適切に設置するには、使用するポートごとに認定された 1/2 インチの NPT コンジット、グラウンド、またはアダプタを用意する必要があります。（たとえば、Sealcon 社では認定されたグラウンドとアダプタを提供しています。<https://www.sealconex.com/?ex=9wkuir-fln65y-13897wy-drrs7y> を参照してください）。

静電放電の回避

危険場所での静電気の放電を防ぐため、絶縁体にのみ触れるか、設置場所の静電気を継続的に放電する手段を使用してください。

メンテナンスの実施

アクセスポイントは、可動部品、フィルタ、潤滑油、または機械的接触部品を採用していないため、最小限の定期保守または予防保守で済みます。ただし、危険場所に設置する場合は定期検査を実施し、アクセスポイントが問題なく動作していることを確認する必要があります。ここでは、危険場所に設置されたアクセスポイントのメンテナンスの実施について説明します。

アクセスポイントの使用の中止

アクセスポイントの使用を中止する場合は、アクセスポイントの電源を切ってから、カバーを開けて入力配線を取り外してください。AC 配線を取り外す場合は、アース接続を最後に取り外してください。

定期検査の実施

アクセスポイントの検査を定期的に行い、危険場所の環境で密閉性を保ったまま正常に動作していることを確認する必要があります。

検査手順	周期
O リングの密閉性と外側の電氣的接続部の老化、腐食、およびアース抵抗の大きさを検査します。	3 年ごと
カバーおよび Liquid-Tight アダプタのガスケットの気密性を検査します。	5 年ごと

防爆標準規格およびマーキングの文字列

特定の使用条件

- ケーブルグランド/コンジットは、IP66//67 定格に適合するように ATEX/IECEX 認定のものを使用します。ケーブルグランド/コンジットのエントリのサービス温度は 80.2°C (176.36°F) です。
- 危険場所での静電気の放電を防ぐため、絶縁体にのみ触れるか、設置場所の静電気を継続的に放電する手段を使用してください。
- この装置は IEC 60664-1 で定義されている汚染濃度 2 以下の環境でのみ使用できます。



(注) 回路は、IEC 60664-1 で定義されている過電圧カテゴリ II に限定されるようにプロビジョニングを行う必要があります。

- 装置への供給端子のピーク定格電圧値の 140% を超えないレベルに設定された過渡保護が提供される必要があります。
- 意図しない損傷からアンテナを保護するための対策が、デバイスに対して施されている必要があります。注：アンテナを使用しない場合は、アンテナキャップを取り付ける必要があります（最大トルク範囲：6.2 ～ 9.7 インチポンド）。
- アンテナには LMR-240/LMR-400/LMR-600 同軸ケーブルのみを使用でき、最大許容ケーブル長は 150 フィート（45.72 メートル）です。
- アクセスポイント機器では、特定のアンテナのみを使用できます。アクセスポイント機器にアンテナを取り付ける場合の取り付け手順を参照してください。
- 取り付け位置は垂直位置で、電源差し込み口が下向きになるようにする必要があります。

防爆の認証および証明には次の標準規格が使用されました。

UL 121201, Ed. 9

CSA C22.2 No. 213、第3 版

CAN/CSA C22.2 No. 60079-0:19、第 4 版

CAN/CSA C22.2 No. 60079-7、第 2 版、AMD 1

CAN/CSA C22.2 No. 60079-11、第 2 版

CAN/CSA-C22.2 NO. 60079-31:15

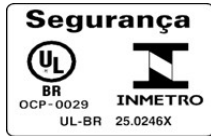
EN IEC 60079-0:2018

EN 60079-7: 2015+A1:2018

防爆の認証および証明には次の標準規格が使用されました。
EN 60079-11:2012
EN 60079-31:2014
UL 60079-0、第 7 版
UL 60079-7、第 5 版
UL 60079-11、第 6 版
UL 60079-31、第 2 版
IEC 60079-0、第 7 版
IEC 60079-7、第 5.1 版
IEC 60079-11、第 6 版
IEC 60079-31、第 3 版
GB 3836.1-2010
GB 3836.3-2010
GB 3836.4-2010
GB 3836.9-2014

Catalyst IW9167EH-HZ モデルには、次の防爆マーキング文字列が用意されています
クラス I、ディビジョン 2、グループ A、B、C、D
クラス 1、ゾーン 2、AEx ic ec IIC T4 Gc
ゾーン 22 AEx ic tc IIIC T90°C Dc
 II 3G Ex ic ec IIC T4 Gc
 II 3D Ex ic tc IIIC T90°C Dc
Ex ic ec IIC T4 Gc Ex ic tc IIIC T90°C Dc
UL 24 ATEX 3310X
IECEX UL 24.0093X

Catalyst IW9167EH-HZ モデルには、次の防爆マーキング文字列が用意されています



25-KA4BO-0329X

25-KA4BO-0330X

25-KA4BO-0331X

25-KA4BO-0332X





第 8 章

適合宣言および規制に関する情報

- 製造業者による連邦通信委員会への適合宣言 (69 ページ)
- Operation of Cisco Catalyst Access Points in México (70 ページ)
- VCCI に関する警告 (日本) (71 ページ)
- カナダ向けの適合文書 (72 ページ)
- 中国適合文書 (73 ページ)
- European Community, Switzerland, Norway, Iceland, and Liechtenstein (73 ページ)
- Operation of Cisco Catalyst Access Points in Brazil (74 ページ)
- RF 被曝に関する適合宣言 (75 ページ)
- 適合宣言 (78 ページ)

製造業者による連邦通信委員会への適合宣言



Access Point Models	認証番号
IW9167EH-B	LDKIW9167EH

製造業者：

〒107-6227

東京都港区

San Jose, CA 95134-1706

USA

このデバイスは、Part 15 の規定に適合しており、動作は次の 2 つの条件を前提としています。

1. このデバイスによって、有害な干渉が発生することはない。
2. このデバイスは、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉も含め、すべての干渉を受け入れなければならない。



(注) Cisco Catalyst IW9167EH-Z アクセスポイント：5150 ～ 5350 MHz の屋内帯域での運用をサポートします。屋外での運用は、5150 ～ 5350 MHz では固く禁じられています。屋外での運用は、5500 ～ 5825 MHz の周波数帯域で許可されます

連邦通信委員会の電波障害に関する宣言

この機器は、FCC 規定の Part 15 に基づくクラス A デジタルデバイスの制限に準拠していることがテストによって確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザー側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。



注意 FCC 規定 Part 15 に準拠した無線デバイスは、一体型アンテナを使用した場合、当該周波数で動作する他のデバイスと干渉のない状態で動作します。シスコによる明確な許可なしに製品への変更を行った場合、ユーザはこのデバイスの使用を禁止されることがあります。



注意 石油プラットフォーム、車、列車、ボート、および航空機でこのデバイスを操作することは禁止されています。無人航空機システムの制御または無人航空機システムとの通信のために 5.925 ～ 7.125 GHz 帯域で送信機を操作することは禁止されています。

Operation of Cisco Catalyst Access Points in México

Declaración para México

La operación de este equipo está sujeta a las siguientes dos condiciones: (1) es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y (2) este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada.

VCCIに関する警告（日本）

ステートメント 2012 - 日本向け VCCI クラス A に関する警告



警告 ステートメント 2012 - 日本向け VCCI クラス A に関する警告

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
VCCI-A

Cisco Catalyst アクセスポイントの使用に関するガイドライン（日本の場合）

このセクションでは、日本で Cisco Catalyst アクセスポイントを使用する際に干渉を回避するためのガイドラインを示します。このガイドラインは、日本語と英語で提供されています。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認して下さい。
- 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談して下さい。
- 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせ下さい。

連絡先： 03-6434-6500

English Translation

This equipment operates in the same frequency bandwidth as industrial, scientific, and medical devices such as microwave ovens and mobile object identification (RF-ID) systems (licensed premises radio stations and unlicensed specified low-power radio stations) used in factory production lines.

1. Before using this equipment, make sure that no premises radio stations or specified low-power radio stations of RF-ID are used in the vicinity.

2. If this equipment causes RF interference to a premises radio station of RF-ID, promptly change the frequency or stop using the device; contact the number below and ask for recommendations on avoiding radio interference, such as setting partitions.
3. If this equipment causes RF interference to a specified low-power radio station of RF-ID, contact the number below.

Contact Number: **03-6434-6500**

カナダ向けの適合文書

This device complies with Industry Canada licence-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device. Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

Under Industry Canada regulations, this radio transmitter may only operate using an antenna of a type and maximum (or lesser) gain approved for the transmitter by Industry Canada. To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (e.i.r.p.) is not more than that necessary for successful communication. Conformément à la réglementation d'Industrie Canada, le présent émetteur radio peut fonctionner avec une antenne d'un type et d'un gain maximal (ou inférieur) approuvé pour l'émetteur par Industrie Canada. Dans le but de réduire les risques de brouillage radioélectrique à l'intention des autres utilisateurs, il faut choisir le type d'antenne et son gain de sorte que la puissance isotrope rayonnée équivalente (p.i.r.e.) ne dépasse pas l'intensité nécessaire à l'établissement d'une communication satisfaisante.

This radio transmitter has been approved by Industry Canada to operate with the antenna types listed below with the maximum permissible gain and required antenna impedance for each antenna type indicated. Antenna types not included in this list, having a gain greater than the maximum gain indicated for that type, are strictly prohibited for use with this device. Le présent émetteur radio a été approuvé par Industrie Canada pour fonctionner avec les types d'antenne énumérés ci-dessous et ayant un gain admissible maximal et l'impédance requise pour chaque type d'antenne. Les types d'antenne non inclus dans cette liste, ou dont le gain est supérieur au gain maximal indiqué, sont strictement interdits pour l'exploitation de l'émetteur.

Operation in the band 5150-5250 MHz is only for indoor use to reduce the potential for harmful interference to co-channel mobile satellite systems. La bande 5 150-5 250 MHz est réservée uniquement pour une utilisation à l'intérieur afin de réduire les risques de brouillage préjudiciable aux systèmes de satellites mobiles utilisant les mêmes canaux.

Users are advised that high-power radars are allocated as primary users (i.e. priority users) of the bands 5250-5350 MHz and 5650-5850 MHz and that these radars could cause interference and/or damage to LE-LAN devices. Les utilisateurs êtes avisés que les utilisateurs de radars de haute puissance sont désignés utilisateurs principaux (c.-à-d., qu'ils ont la priorité) pour les bandes 5 250-5 350 MHz et 5 650-5 850 MHz et que ces radars pourraient causer du brouillage et/ou des dommages aux dispositifs LAN-EL.

カナダ産業省

Access Point Models	認証番号
IW9167EH-A-HZ	IC:2461A-IW9167EH

中国適合文書

Access point model

IW9167EH-ROW-HZ 无 ▪ 接入器

Simplified Chinese Translation

安全和 ▪ 磁 ▪ 射 ▪ ▪

本 ▪ ▪ 符合FCC ▪ ▪ 第15部分、欧洲共同体委 ▪ 会 ▪ 布的指令2014/53/EU、其他一些安全、 ▪ 磁 ▪ 射和无 ▪ ▪ ▪ ▪。

CMIIT-核准 ▪ 号 ▪ ▪ 在 ▪ 品本体背面 ▪ ▪。

English Translation

Safety and Electromagnetic Radiation Certificate

This device complies with Part 15 of the FCC Rules, Directive 2014/53/EU of the Commission of the European Communities, and other safety, Electromagnetic Emissions and Radio certificates.

This device is certified by the China State Radio Regulatory Committee (SRRC) with a valid CMIIT ID. The CMIIT ID is marked on the label of the product.

European Community, Switzerland, Norway, Iceland, and Liechtenstein

Access Point Models:

IW9167EH-E-HZ

製品には、CE マークが貼付されています。





- (注) 本装置は、EU および EFTA 各国で使用することを目的としています。屋外での使用は、一定の周波数に制限されたり、また使用にあたっては資格が必要となる場合があります。詳細は、Cisco Corporate Compliance お問い合わせください。



- 注目 この無線機器は、欧州連合全体で調和されていない 5860 ～ 5930 MHz の周波数帯域で動作します。本機器の使用は、一部の EU 加盟国において制限やライセンス要件の対象となります。使用する前に各国の規制を確認することをお勧めします。

本機器は、制御されていない環境に対して規定された EU 被曝制限に準拠しています。本機器は、放射物と人体の間を最低でも 20 cm 離れた状態で設置および使用してください。

EU での周波数と最大送信電力は次のとおりです。

2402 ～ 2480 MHz (LE) : 9.8 dBm

2400 ～ 2483.5 MHz : 19.95 dBm

5180 ～ 5240 MHz : 22.98 dBm

5260 ～ 5320 MHz : 22.98 dBm

5500 ～ 5700 MHz : 29.97 dBm

5725 ～ 5850 MHz : 35.09 dBm

5860 ～ 5930 MHz : 32.0 dBm

	AT	BE	BG	HR	CY	CZ	DK
	EE	FI	FR	DE	EL	HU	IE
	IT	LV	LT	LU	MT	NL	PL
	PT	RO	SK	SI	ES	SE	UK(NI)

ノルウェー (NO)、アイスランド (IS)、リヒテンシュタイン (LI)、トルコ (TR)、スイス (CH)

Operation of Cisco Catalyst Access Points in Brazil

このセクションには、ブラジルでの Cisco Catalyst アクセスポイントの動作に関する特別な情報が含まれています。

Access Point Models	認証番号
IW9167EH-ROW	22399-23-01086
IW9167IH-ROW	05646-24-01086

図 13: ブラジル規制情報



Anatel <https://www.gov.br/anatel/pt-br>

Resolução 680 de 27 de junho de 2017

ポルトガル語

Este equipamento não tem direito à proteção contra interferência prejudicial e não pode causar interferência em sistemas devidamente autorizados.

英語

This equipment is not entitled to the protection from harmful interference and may not cause interference with duly authorized systems.

CISPR22 ステートメント

Este produto não é apropriado para uso em ambientes domésticos, pois poderá causar interferências eletromagnéticas que obrigam o usuário a tomar medidas necessárias para minimizar estas interferências.

この製品は、電磁干渉を引き起こす可能性があるため、家庭環境での使用には適していません。このような干渉を最小限に抑えるために、ユーザーは必要な措置を講じる必要があります。

RF 被曝に関する適合宣言

ここでは、RF 被曝のガイドラインへのコンプライアンスに関する情報が含まれます。

RF 被曝の概要

シスコ製品は、無線周波数の人体暴露に関する次の国内および国際規格に準拠するように設計されています。

- US 47 米国連邦規則パート 2 サブパート J
- 米国規格協会 (ANSI) / Institute of Electrical and Electronic Engineers / IEEE C 95.1 (99)

- 国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）98
- 保健省（カナダ）安全規定 6。3 kHz から 300 GHz の範囲での無線周波数フィールドへの人体暴露の制限
- オーストラリアの放射線防護規格

国内および国際的なさまざまな電磁場（EMF）規格に準拠するには、シスコが承認したアンテナとアクセサリのみを使用してシステムを操作する必要があります。

このデバイスの、電波への暴露の国際的ガイドラインへの準拠

デバイスには、無線送信機と受信機が含まれます。このデバイスは、国際的なガイドラインで推奨されている電波（無線周波数電磁場）への暴露制限を超えないように設計されています。ガイドラインは独立した科学的組織（ICNIRP）によって開発されており、年齢や健康状態に関係なくすべての人の安全性を確保するために、十分な安全マージンが含まれています。

このため、システムは、エンドユーザーが直接アンテナに触れずに操作できるように設計されています。ユーザーまたはオペレータの全体的な暴露を減らすための規制のガイドラインに従って、ユーザーからの最低距離を保ちながらアンテナを設置できるような場所に、システムを配置することを推奨します。

RF 被曝距離

20 cm

世界保健機関は、現在の科学情報が無線デバイスの使用に特別な注意を要求していないことを示しています。世界保健機関の推奨によると、暴露をさらに低減することに関心がある場合は、アンテナをユーザーから離れた方向に向けるか、推奨された距離よりも遠い場所にアンテナを配置することによって、簡単に低減できます。

このデバイスの、電波への暴露の FCC ガイドラインへの準拠

デバイスには、無線送信機と受信機が含まれます。このデバイスは、FCC Part 1.1310 の電波（無線周波数電磁場）への暴露の制限を超えないように設計されています。ガイドラインは、IEEE ANSI C 95.1（92）に基づいており、年齢や健康状態に関係なくすべての人の安全性を確保するために、十分な安全マージンが含まれています。

このため、システムは、エンドユーザーが直接アンテナに触れずに操作できるように設計されています。ユーザーまたはオペレータの全体的な暴露を減らすための規制のガイドラインに従って、ユーザーからの最低距離を保ちながらアンテナを設置できるような場所に、システムを配置することを推奨します。

デバイスには、無線機認証プロセスの一部としてテストが実施され、該当する規制への準拠が確認されています。

RF 被曝距離

107 cm

米国の食品医薬品局は、現在の科学情報が無線デバイスの使用に特別な注意を要求していないことを示しています。FCCの推奨によると、暴露をさらに低減することに関心がある場合は、アンテナをユーザーから離れた方向に向けるか、推奨された距離よりも遠い場所にアンテナを配置するか、送信機の出力を低下させることによって、簡単に低減できます。

このデバイスの、電波への暴露に対するカナダ産業省のガイドラインへの準拠

デバイスには、無線送信機と受信機が含まれます。このデバイスは、カナダの保健安全規定コード6の電波（無線周波数電磁場）への暴露の制限を超えないように設計されています。ガイドラインには、年齢や健康状態に関係なくすべての人の安全性を確保するために、制限に十分な安全マージンが含まれています。

このため、システムは、エンドユーザーが直接アンテナに触れずに操作できるように設計されています。ユーザーまたはオペレータの全体的な暴露を減らすための規制のガイドラインに従って、ユーザーからの最低距離を保ちながらアンテナを設置できるような場所に、システムを配置することを推奨します。

RF 被曝距離
60 cm

カナダの保健省は、現在の科学情報が無線デバイスの使用に特別な注意を要求していないことを示しています。推奨によると、暴露をさらに低減することに関心がある場合は、アンテナをユーザーから離れた方向に向けるか、推奨された距離よりも遠い場所にアンテナを配置するか、送信機の出力を低下させることによって、簡単に低減できます。

Cet appareil est conforme aux directives internationales en matière d'exposition aux fréquences radioélectriques

Cet appareil de la gamme comprend un émetteur-récepteur radio. Il a été conçu de manière à respecter les limites en matière d'exposition aux fréquences radioélectriques (champs électromagnétiques de fréquence radio), recommandées dans le code de sécurité 6 de Santé Canada. Ces directives intègrent une marge de sécurité importante destinée à assurer la sécurité de tous, indépendamment de l'âge et de la santé.

Par conséquent, les systèmes sont conçus pour être exploités en évitant que l'utilisateur n'entre en contact avec les antennes. Il est recommandé de poser le système là où les antennes sont à une distance minimale telle que précisée par l'utilisateur conformément aux directives réglementaires qui sont conçues pour réduire l'exposition générale de l'utilisateur ou de l'opérateur.

Distance d'exposition RF
60 cm

Santé Canada affirme que la littérature scientifique actuelle n'indique pas qu'il faille prendre des précautions particulières lors de l'utilisation d'un appareil sans fil. Si vous voulez réduire votre exposition encore davantage, selon l'agence, vous pouvez facilement le faire en réorientant les antennes afin qu'elles soient dirigées à l'écart de l'utilisateur, en les plaçant à une distance d'éloignement supérieure à celle recommandée ou en réduisant la puissance de sortie de l'émetteur.

RF 被曝に関する追加情報

次のリンクからこの問題の詳細情報を参照できます。

- Cisco Systems スペクトラム拡散無線機と RF の安全性に関するホワイトペーパーの URL : http://www.cisco.com/warp/public/cc/pd/witc/ao340ap/prodlit/rfhr_wi.htm
- FCC 情報 56 : 無線周波数電磁場の生物学的影響および潜在的な危険に関する質問と回答
- FCC 情報 65 : 無線周波数電磁場に対する人体暴露の FCC ガイドラインとのコンプライアンスの評価

次の組織から追加情報を入手できます。

- 非イオン化の放射線防護に関する世界保健機関の内部委員会の URL : www.who.int/emf
- 英国 National Radiological Protection Board の URL : www.nrpb.org.uk
- Cellular Telecommunications Association の URL : www.wow-com.com
- Mobile Manufacturers Forum の URL : www.mmfa.org

適合宣言

この製品に関するすべての適合宣言は、次のサイトに掲載されています。 <https://pas.cisco.com/pdtnrc/#/>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。